

ヒットラーと
獨逸ファシズム運動

木下好太郎著

ヒットラーと

獨逸ファシズム運動

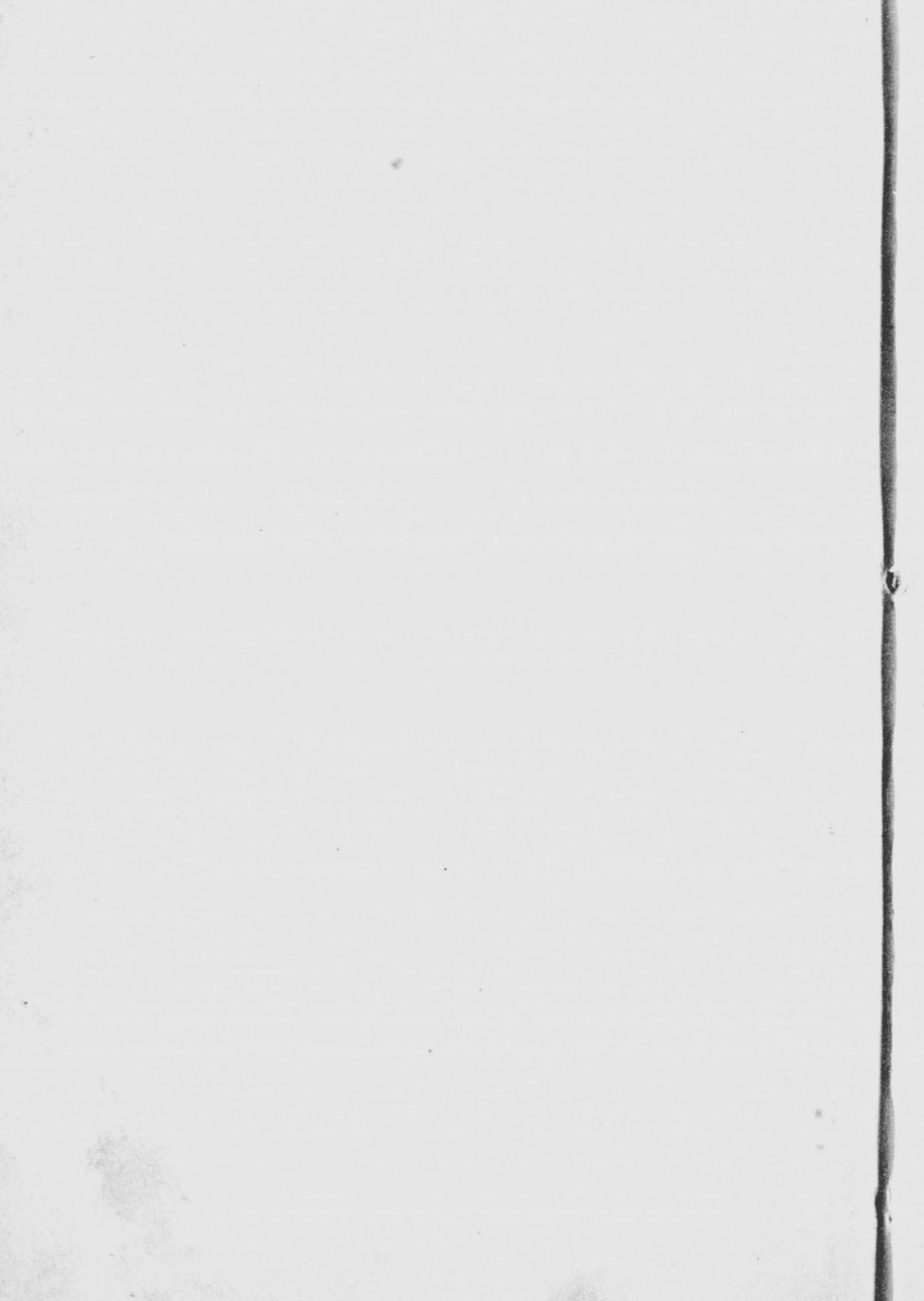
辯護士 木下好太郎著

卐 卐

408

内外社版



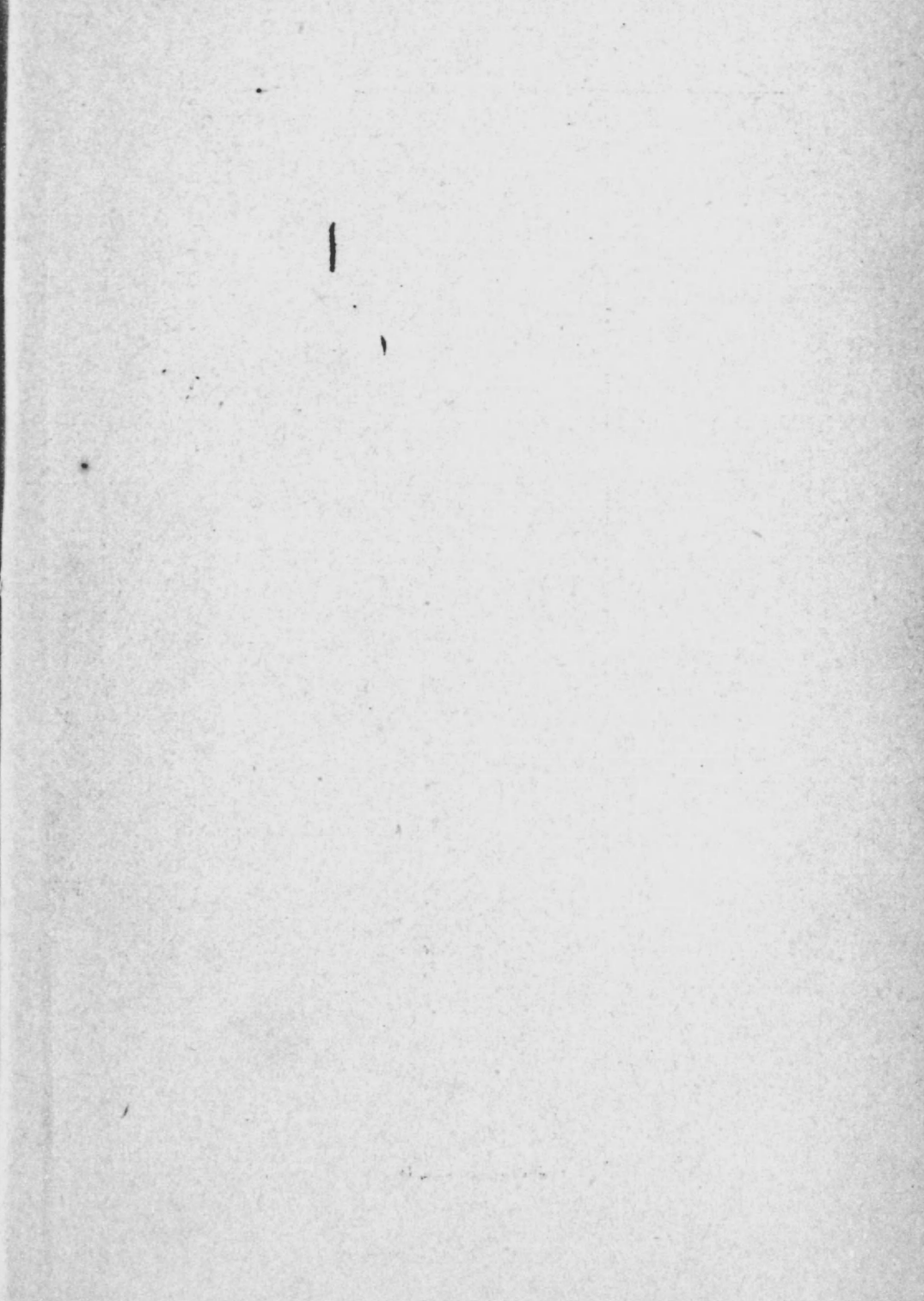


木下好太郎著

ヒットラーと獨逸ファシズム運動

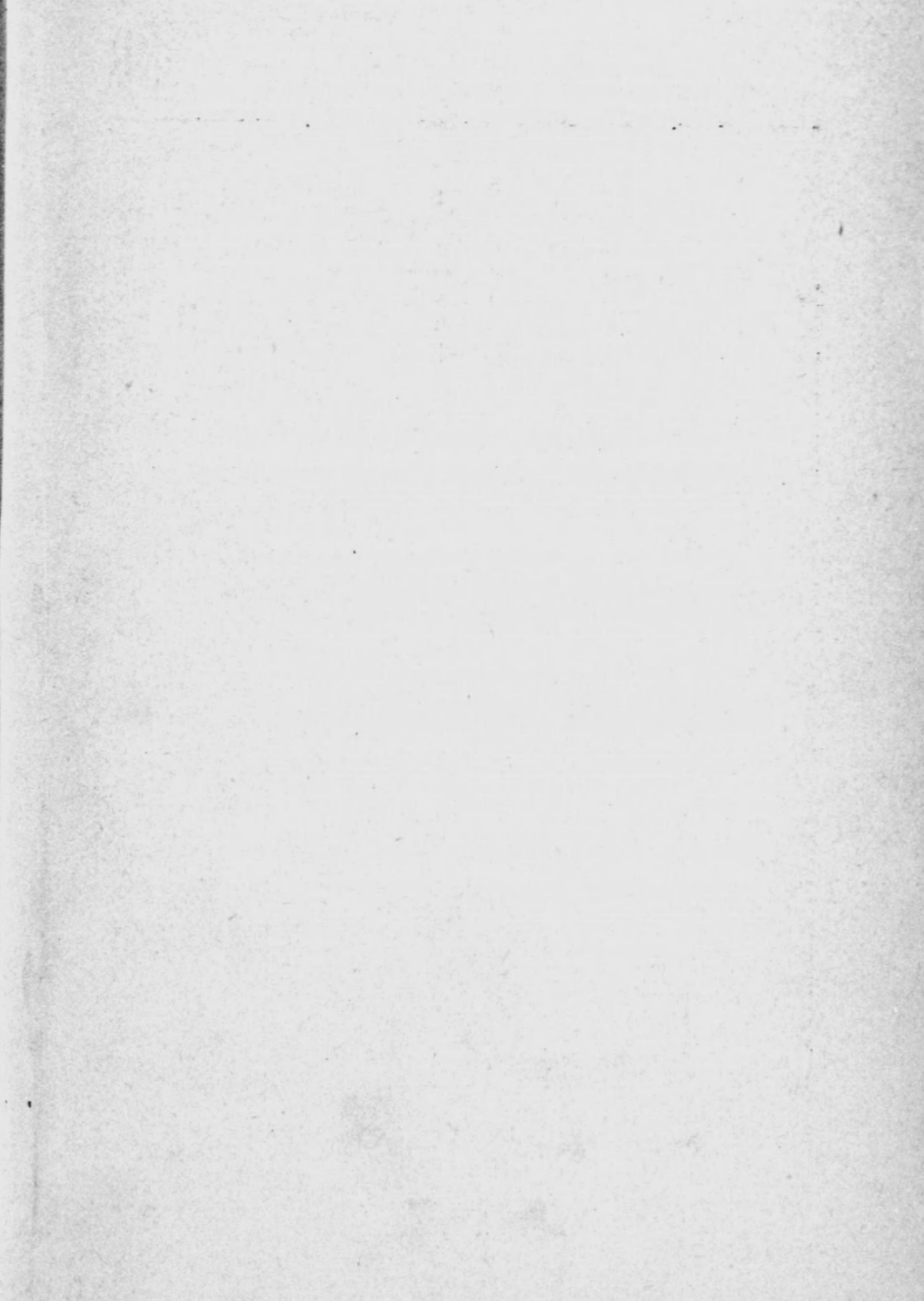
内外社刊






目次

1	ヒットラーの経歴……………	五
2	指導者としてのヒットラー……………	一六
3	ドイツの歴史とヒットラーの國粹主義……………	二七
4	ヒットラーの國粹主義とドイツ民族の國粹意識の發揚……………	四七
5	ドイツ國粹社會黨の一般的指導原理……………	五四
6	ドイツ國粹社會黨の政策綱領……………	六二
7	ドイツ國粹社會黨の宣傳方法に就いて……………	八三
8	ドイツ國粹社會黨の批判……………	九二





一 ヒットラーの經歷

獨逸國粹社會勞動黨を率ゆるアドルフ・ヒットラーは、一八八九年四月二十日、

バイエルンとオーストリアの國境に近いブラウンナウといふ小さい町に生れた。

彼は今年四十三才の働き盛りであり、現時猛然として擡頭して來たドイツ國粹社會黨切つての闘士であり指導者である。所謂鳶色の彼の家から發する彼の一聲一語が、現在のドイツ全政局を支配し、彼の一舉手一投足が、あらゆる世界人の神經を刺戟する程、彼は時代の英雄となつた。

一九三二年の世界政局に於てかくまで強い力を有する我がヒットラー氏は、然

しながら生れると直ぐから斯くズバ抜けた人間ではなかつた。而も彼の青年期に至るまでの生涯は寧ろ幸福平穩といふより不幸薄倖で充たされて居た。彼の先祖はバイエルン生え抜きの百姓であつた。彼の父は最初は百姓をしてゐたが、後、オーストリアに出て下級の税關吏になつた。

ヒットラーは幼時カトリック教的に教育され、上部オーストリアの都リンツの實科學校の一年生に入學した。彼は十三才の時父と死別し、そして又、十六才の時には彼の母を失つた。

最初、ヒットラーは百姓が嫌ひで、畫家かペンキ屋にならうと思つて居たが、さる大學教授の勧めに依つて建築家を志し、此の目的を抱いて、十六才の時ウィーンに旅立つた。

ウィーンに來てからの五年間の彼の生活は實に悲慘なものであつた。彼は此の五年間の生活を、彼の著「吾が闘争」中に於ても回想して居るやうに、悲慘と涙

と苦闘の生活であつたと言つて居る。彼は

「五年間、私は最初、助手として働き、それから小書家として働いて糧を得なければならなかつた。而も此の本當に少い所得は、單に普通の空腹を満足させるのにも充分ではなかつた。」と回顧して居る。

然し此の悲惨な生活の中に於ても彼は新知識を得ることを忘れなかつた。彼は凡ゆる機會を利用して讀書した。彼は彼の糊口にも足りぬ收入の中からさへ書物を買ふことを忘れなかつた。事實此の時代のヒットラーの荒涼たる生活中に於ては、此の讀書のみが唯一の彼の温かい友であり、伴侶であつたのだ。此の苦闘が高等學校にも大學にも學ばなかつたヒットラーに、それ等の卒業生にも勝る知識を與へたのである。現在、黨の指導者としての彼の包括的な歴史的、政治的知識と批判力、そして又他面に持つ美學的教養は、皆、此の五ヶ年間の自學獨習に負つて居るのである。

今日のヒットラーは、堂々たる世界的政治家であるが、他面、彼の若き時代は又非常な藝術愛好家でもあつた。彼は此の藝術的愛好心を充たす爲めに、一九一二年にはミュンヘンに出掛けて居る。此の頃の彼は、漸く以前の餓死線より抜け出した時期で、可成り幸福な、恵まれた時代であつた。前掲の「吾が闘争」中に於ても、「此の時代程幸福で、満足であつた生活は私の生涯中になかつた。」と朗かに述べて居る程である。

ミュンヘンでの此の幸福な朗かな生活は、ヒットラーの生涯に於て、又一時期を劃する時代であつた。ヒットラーは此のミュンヘン時代から、始めて政治的諸問題、特に外交關係の諸問題に強烈な興味を興えるやうになつたのである。従つて、ミュンヘン時代には、彼は、彼の美術研究以外の殆んどすべての學問を注いで、政治、外交問題の研究に没頭して居たのである。

世界大戰の勃發は、然しながら此の熱情漢を靜寂な勞的研究に精進させてはおかなかつた。大戰の勃發と共に、彼ヒットラーは八月三日、早速、バイエルンの皇帝に軍隊志願狀を出して、バイエルンの軍團に加入し、學生志願兵に編入された。短期の軍隊訓練の後彼は直に此の軍隊と共に、ランゲマルクの決死的攻撃に従事し、それから四年間、西部戦線に於て最も困難な、危険極まる軍事行動に従事して居た。一九一六年十月には名譽の負傷をして衛戍病院に入つたが、一九一七年三月には再び直に前線に立ち、フランダース地方に於て、英國軍に向つて再度、猛烈な撃退攻撃をやつた。一九一八年の秋には三度、フランダースに於て英軍と衝突し、此の激戦で、ドイツ軍は非常な苦戦をなし、彼は、十月十三日夜、數時間に亘る砲彈瓦斯彈等の十字砲火の中を潜つてベルヴィック南方の丘上に逃れた。此の戦争で、彼の幾多の戦友は死傷し、其の中には彼の親友も交つて居た。彼自身も、朝になるや、負傷の痛みは一刻一刻烈しくなり、目は焼けつくや

うになり、數時間後には一時盲目となり、遂にボンメルンの野戰病院に入院しなければならなかつた。

一九一八年には、續く大戰の敗退と、戰爭に依る國內の未曾有の衰微と困亂に依り、ドイツは革命の波で以て充された。到る處の市街には市街戰が起り、勞働者は工場を占領し、兵士は軍規を破つて反亂に狂つた。而も、ドイツの敗戰は、列國に依るドイツ分割をさへ敢行せしめやうとした。帝國主義ドイツは今や完全に地べたにタ、キ付けられ、思ふ様踏みにぢられてしまつた。それに内亂、底なき動搖、此の戰勝列國に依る完膚なきまでのドイツ民族強壓と、そのさなかにあつての一九一八年十一月革命とこそが、實に今日のヒットラーをして民族主義の下に驟起せしめ、ドイツ國粹主義の大旗の下に奮起せしめた動因であつたのである。事實、此の革命に直面して、若き勇敢なるドイツ青年戰士ヒットラーは、聲を立てて憤泣した。彼のドイツ民族に對する燃ゆるが如き愛着と、彼の此等の革

命家に對する衷心からの憎惡とが、彼をして今日ドイツ國民の爲めの政治闘争に
そして又、十一月革命に對する復讐闘争に猛進せしめる根本原因である。

此の時の事をヒットラーは次のやうに述べて居る。

「私は母の墓前であの時程泣いた事はない。私の青年時代に於ては、私の運命
は無慈悲であつたし、私は私の運命に闘つても來た。長い大戰中に於ては親愛な
る友は倒れ、同志は地上より消え去つた。此の時、私が愚痴ツボク涙を流すなん
てことは寧ろ罪惡である。戦友は皆ドイツ帝國の爲めに死んだのだ！私が最後
の日、恐る可き毒瓦斯の環に包まれて兩眼を犯され、永久に盲目になるのではな
いかと戦慄した時、突如、私の良心は叫んだ。憫れな奴め、幾千の同志は祖國ド
イツの爲めに死んでるのに、汝は情けなくも號泣するのか、と。そして私は私の
進む可き運命の前途についたのだ。今や私は叫ぶ、祖國の不幸を前にして個人的
のあらゆる愁が如何に取るに足らぬか！……………」

怖しき日に恐ろしき夜が続く。私は萬事は消え失せることを知つて居る。然し、虚言者と犯罪者とに對する憎惡は消えない。此の日夜、私は憎惡を、此の賣國奴的革命行爲の首謀者に對する憎惡を育み養つて居る。

かくて私は更に政治家たるべく決心したのである。」と。

三

世界大戰に依る軍國主義ドイツの敗退と、それに伴ふドイツの國家革命とは、吾が若き熱血漢ヒットラーをして祖國ドイツを背負つて立つ國粹的政治家たらしめた。一無名の青年建築圖案家としてのヒットラーは、奇しくも世界大戰に依つて新境地への第一步を踏み出したのである。

然し、當時のドイツの社會狀勢は、祖國を守れと叫ぶ一無名の街歌政客の聲に注目すべく餘りにも踏みにぢられて居たのである。國民はヒットラーの意向とは反對に、彼等の新生への活路は一途に唯共和國ドイツにのみ在りとしてその建設

にいそしんで居たのである。

かくして新共和國ドイツの基礎が已に十分に固められて居た時即ち一九二三年十一月九日の夜、突如、南獨シュンヘン市の市會議事堂に於て、ルーデンドルフ將軍の臨席のもとに我がヒットラーはベルリンの共和國中央政府に反對する革命の宣言をやつた。彼が具體的に彼の主張を天下に發表して、その行動に移したのは、之が最初である。

然し、彼の此の政治的行動の最初の計畫は、不幸にして失敗に終つた。そして此の結果、彼が得た所のものは、單に、ドイツ中の侮蔑的嘲笑と、彼を以て「政治的道化役者」とする冷笑のみであつた。

此れのみでなく、此の革命の失敗に依つて、ヒットラーは、彼の最も力として居た、かのルーデンドルフ將軍とは不和となつてしまつたし、其の上、彼の同志の者さへ彼を裏切つた。而も、ドイツ共和國は、彼を以て共和國に對する政治的

反逆者と判決し、五ヶ年の刑を宣告したのである。

投獄されたヒットラーは、然し決して彼の素志を翻さなかつた。幸か、不幸か、共和國ドイツは、彼の五年の刑を一年で赦免した。寛大なるドイツ共和國政府に依つて與へられたる四年間の出獄生活は、ヒットラーにとつては最も有意義な四年間であつた。彼の國粹主義的運動が、今日の隆盛にまで發展し、全ドイツ政局の運命を左右するまでの勢力を獲得し得たのは、實に此の四年の出獄生活の結果であつたのである。此の意味に於て、彼が無名であり、全ドイツに依つて當時問題にされなかつた事が、その結果に於て、彼を一ヶ年で釋放し、幸運を拾つたことになるのである。

出獄後の社會狀勢は、政治的に經濟的に内外漸く錯雜の相を露呈するに至り、ヒットラーの一大ドイツ國民の大同團結の旗の下に説く、かの生存の保證と民族の繁榮、及び祖國ドイツの自由と獨立のアピールは、果然、ドイツ全大衆の日常

の具體的生活の要求と合致するに至つたのである。

一九二三年十一月九日の革命當時、彼を支持した者、全國僅に二十萬と稱せらるゝに反して、出獄五年後の一九三〇年の九月十四日の全國總選舉に於ては、一躍六百五十萬、百七の議席を獲得した事實を見れば、彼が僅か五ヶ年間に如何に鬭爭し、ドイツ全民衆が如何に彼の主張に共鳴したかを覗ひ得るであらう。一九二三年、政治的道化役者と嘲笑された、彼、ヒットラーも、かくして今や、全ドイツの政局を左右する世界的巨人にまで飛躍したのである。

二 指導者としてのヒットラー

一

現代ドイツに於ける急激なる國家社會主義の擡頭に就いては、資本主義世界の示顯する現代の未曾有の不況と、その一環をなすドイツ資本主義國家の特殊性、換言すれば、ドイツの政治的、經濟的、社會的諸態様に依つて導かれるものと説明する事も可能であらう。然しながら、此の一面、吾々は今日のドイツ、フアスシズム興隆の最も重要な原因の一つとして、黨を實質的に指導する彼、ヒットラーの役割を忘るる事は出来ない。

歴史に於ける個人の重要性に就いては諸種の問題があらうし、諸種の解釋があ

らう。そして又、現代の如く大衆を以て歴史の齒車の推進力と見る社會に於ては、特に歴史に於ける個人の役割は小さいものかも知れない。確に、崩壊し行く社會の歴史的過程を一個人の力に依つて與へる事は、恐らく、太平洋の水を蒸發させてしまはうと試みる程に無駄な事であらう。然しながら、社會の歴史的發展の過程を如何やうに導き、如何やうに組立てて行くかに就いては個人の實力と天分が作用することは否めない。

ヒットラー自身、「人類の進化と文化とは多數に依つて生成されるものではなくて、絶對的に個人の天分と實力に基くものである」と主張する。そして此の事は一九三〇年のドイツ總選舉に於て具體的に實證された。そのみでなく、近くはイタリーに於けるムッソリーニの存在と、ロシア共產主義革命に於ける奇傑レーニンの役割とが、政治及び歴史に於ける個人の實力が如何に重要であるかを物語つて居るのではなからうか。

ヒットラーは黒い髪の毛を持つた。彫刻的な陰影の多い顔の中背の男である。

彼は四年間の塹壕生活に依つて得た強力な身心を持つてゐる。彼の輝しい眼と、眞直ぐな鼻は、彼の力強い性格を端的に物語つて居る。彼は素晴らしい雄辯家である。彼の情慾的な雄辯をきく者は、彼の全身から溢れ出るダイナミックな精力に打たれる。聴衆は、彼の素晴らしいアビ、ルに一も二もなく熱中する。

彼の此の大衆への呼びかけに依つて、此の前の總選舉に於ては、新に選舉權を得た五十萬人の大部分がヒットラー派に投票した。此等の新有權者は、歐洲大戰を知らず、ドイツの將來を背負つて立つ青年層である。此の新時代の青年が、ヒットラーの人格と思想に、深甚なる共鳴を寄せて居ることは、蓋し最も注意すべき事柄であらう。

二

總選舉に依る、斷然たるヒットラーの擡頭は、從來、ヒットラーの人格、思想

に對して無關心であつた人々にまで異常な關心を呼び起した。今まで徒に反動として、其の運動を默殺して居た共和主義者も、詳細なるヒットラーの主義の再考を強要されたのである。

彼の主義は多端である。その詳細は後記する、彼の政綱二十五ヶ條に明示されて居るが、一言にし盡せば、社會主義、國家主義反共和主義、而して反ユダヤ主義のカクテルである。然しながら、彼の此の一面複雑なるが如き主義主張も、決して在來の一夜漬けのその如く皮相的ではない。彼の主義も主張も、實に今日の複雑なるドイツの社會的特殊性に基因して生れたるものである。此の意味に於て、ヒットラーの主義思想は、嚴密に研究さるべき幾多の領野を持つて居る。

從來、ドイツ國家を打つて一丸となし、強力なるドイツ國家の建設に力を致したものの如く鐵血宰相、ビルマルクがある。彼の思想と、最高の目的は、完ふまでもなく個々のドイツ國內の國家を、政治的に統一し、内外に向つて強力なる發

展を志すに在つた。此れに比して、今日のヒットラーの目的とする所のものは、ドイツ民族たるものは、凡て共通の民族的特性を意識することに依つて、一大同團結を圖ることに在るのである。ドイツ民族の天賦の特質を、肉體的、精神的に有能ならしめ、對立する諸國家の諸民族より阻害され、侵害される事なく、獨立的に自由に、ドイツ民族の素質と力を、總ゆる方面に延ばして行く。かくして覺醒したるドイツ民族が、文化的に、經濟的に政治的に、彼等の天賦の使命を完ふして行く所に、始めて全ドイツ民族の幸福と安寧とが約束されて居ると説くのである。

かゝる基本的の目的遂行の爲めの現實の鬭爭手段として、彼は先づ、現在、最もドイツ全民族を苦しめて居る、戰敗國ドイツの負ふ賠償的義務の全廢を高唱する。ヴェルサイユ條約の廢棄は即ちかゝる目的の爲めの必然的の手段であり、従つてその爲めには、敢て戰爭をも辭せぬことを宣言する。かくて、現在のフラン

ス帝國主義を初めとして、舊聯合國に對して、賠償義務の全廢を要求する。

國內的には、彼は、ドイツの大産業資本の破壊と、その國有とを主張する。個人的大産業資本の存在は、ドイツ國民の現下の生存を阻害するものと見做すからである。此の意味に於て彼は最も熱心なる國家社會主義者である。又、他面、ユダヤ財閥の掃蕩を主張し、唯物史觀に依つて指導さるるマルキシズムの世界觀を排斥する。

此等への、撓みなき闘争なくしては、そして此等を完全に克服する事なくしては、現在のドイツ民族の負ふ苦惱は解決され得ぬと説き、従つて全ドイツ民族は此等の闘争の旗の下に結成すべきであると主張するのである。

此れが彼の思想の斷面である。

近代的政治家ビスマルクの人物は、事の真相を把むに敏に、個々の錯綜せる現象を論理的に、明確に裁斷するに特殊の本能を持つて居た。不撓不屈に自己の所

信を斷行した。然し、他面、此くの如きビスマルクも、ドイツ工業勞働者の精神、及び、此等新興階級の社會的趨勢と意向とに就いては完全に無知であつた。此の事が、外交には華々しい成功を飾つたビスマルクをして、國內的政策を誤らせたのである。

現代の政治的巨人、ヒットラーは、勿論、事物の本質を把握するに明敏な才能を持つて居る。然しながら、彼ヒットラーは、ビスマルクに於て見るとは本質的に異なる、經驗と觀察の範圍とを持つて居るのである。ビスマルクは、國家の機關、即ち主權者、或は大臣、議會、軍隊を過重したのに對して、ヒットラーは、國家機關の指導者たる國民自身を見て居るのである。

ヒットラーは純然たる庶民階級の出であり、既に少年時代より庶民の仲間であり、手工業者として、或は又、名もなき一兵卒として、永き體驗を集めて居る。オーストリアのウインに於ける建築家としての彼の生活は、下層階級の經濟的、

文化的水準の悲慘さを、多分に味つて居る。戰線の四年間は、戰友の靈を見、戰後に於ける彼はユダヤ新聞のドイツ民族への挑戦を経験して居る。

ヒットラーは、國家は民族の爲めに存在するものであり、政府は一議會の多數の手に屈せずして最も責任ある人物の手に歸すべきであることを知つて居る。政治家は、民族の生活の中に潜在する活動力を認識する事、及びその民族の政治的、經濟的發展の爲めに目的を掲揚するのみでは充分でなく、政治家たる者は宜しく其の與へられたる使命の實際的解決にまで直進すべきであり、其の爲めには次の如き三つの特質が必要であるとする。即ち、個人的危險、及び如何なる反對にも恐れざる勇氣、如何なる場合にも臨機應變の所置を取り、善處し、而して自己の目的を遂行する忍耐力、此の三要素が必要である、と。

ビスマルクは、民衆に對し、又、王に對し個人的勇氣を持つて居た。外交に於て示すが如く對外的にも勇敢であつた。彼は死に至るまで不撓不屈の闘士であつ

た。而もその上、ビスマルクは強力なる軍隊と憲法を有して居た。ヒットラーは、政界への最初の一步からして非常な困難に直面して居る。軍隊の解散、憲法の腐敗、ユダヤ人に依つて禍される内敵があつた。ヒットラーには、自己の主張を實現すべき財政上の、政治上の何等の機關もなかつた。彼には唯、勇氣があつたのみである。政治上の目的を實現する爲に、實行を以て開始せんとした勇氣は、煽動された群集に依つて殺されんとした時よりも勇悍であつた。彼は此の勇氣に依つてのみ、大小幾多の事件を俊敏に解決する。

一九二三年の十一月、彼の同志はミュンヘンの司令部前に於て、ドイツ軍隊の銃火に依つて銃殺の運命に散つた。彼の身も、バイエルンの法廷に引きづり出された。當時のユダヤ系の新聞は一齊に暴動と書き立て、市民労働團體は彼を以て、道化役者と侮笑した。然し、ヒットラーは決して、此くの如き運命に屈しなかつた。彼がランズベルグに投獄されて居る間に、彼は「吾が闘争」第一巻を書き上

げたのである。

ヒットラーは、僅かの期間の中に、七人の同志より百萬の黨員を獲得した。あらゆる階級のドイツ人が、此の黨に、一個の國民的、民族的團結として組織されて居る。一九三〇年の總選舉は彼をして議會に於ける第二黨に成功せしめた。そして、從來の共和主義者、マルクス主義者、ユダヤ人の政黨は、一躍、その牙城を棄て、防禦的態勢に驅逐されてしまつたのである。現在、ドイツの中央政府は、最早、ヒットラーの政策主張を顧慮する事なくしては、一步も彼等の政治を實行し得なくなつてしまつてゐる。

又、ドイツを大地に擲きつけた舊聯合諸國は、ヒットラーを凝視して、彼の微細な一舉手一投足にまで注意して居る。一九三〇年前まではベルサイユ條約は、フランス人にも、ドイツ國內のマルキシズムにも、全歐洲の秩序と、ドイツ民族屈服の爲めの止むを得ざる基本法則と見做されて居た。そして此の改正問題が、

ヒットラーの勝利後、數週間にして、英米伊に依つて論議され出した。フランスに於てさへ、ドイツ嫌ひで有名なる人物まで、その改正を主張するに至つて居る。

ヒットラーは、單なる政治家ではなくて、將來のドイツの自由と獨占との爲めに闘争する百萬の國粹社會勞動黨の無比の統率者である。黨員は凡て、全ドイツ民族は一致此のナチオナルゾチアリストの運動に團結すべきを確信して居る。そして彼等は、その統制者ヒットラーの下に、新鮮にして朗かな新ドイツ國家の建設を確信して居るのである。

三 ドイツの歴史とヒットラーの國粹主義

ヒットラーは説いて居る。

—

「自己の國民を愛する者は、國民の爲に喜んで犠牲になる。打算に終始する國粹精神は存在するものではない。又、階級のみを主とする國粹主義もない。……國粹主義と社會正義心との密接な融合が若き心に培はれる時、そして、公共愛、公の自尊心に依つて固く結合する時、其時始めて不變にして而もあらゆる時代に適合する強い國民が出来上るのだ……」

「吾々は一個の統一體であり、吾々は獨逸民族の新しい國民運動の輝しい未來

を確信して居る。愛の國民運動の爲に吾々は死守を誓ひ、吾々は吾々の闘士の忠實を以て、新興ドイツを建設し、ドイツ國の未來の爲に壽ぐであらう！」と。

ヒットラーの哲學に依れば、各個人の生活に於ける基本的問題は二個ありとする。

即ち、一は遇然的條件即ち、事故といふ形式を以て外的に作用する、運命であり、一は、その運命に突進し、その運命を變換する自己の意志である、と。

若し各個人が失敗すれば、其の結果は不憫であるが、之は單に運命に依るのみではなくて、實は、之と同時に作用すべき意志の不完全と行爲の欠陥に依るのである。各個人が失敗と不幸とを征服しやうとすれば、先づ、その人自身の缺點を認識すべきである。そして而る後に、その人の目的に適合する意思を決定すべきである。此れが、個人をその生活に於て活かすべき基本的の問題であると説明するのである。

ヒットラーは、此の個人的法則を以て、直に國民に適用する。

即ち、ドイツ國民の運命と、ドイツ國民自身の現在の失敗は、等しくドイツ國民が過去に於て不完全なる意思を有したが爲である。ドイツ國民自身が、ドイツ國民自身の持つ欠陥を認識せず、國民の目的に適合したる意思を決定しなかつたが爲である。此れは、個人の運命に於けると同様、取りも直さず、ドイツ國民自身の責任である。

現在、ドイツ國民の幾多の部分は、彼等自身から遊離して、外國人の支配下に置かれ、ドイツの軍事的機能は破壊され、ドイツの勞働力は戰債支拂の爲に異常の搾取を受けて居る。ドイツの政治的、文化的生活は、他國民に依つて支配されて居る。ドイツの將來はかくして全く絶望の深淵に臨んで居るのではないか？

何が故に現在のドイツの悲境は招來されたのか？

そして、此の困難を征服せんが爲に、ドイツ國民は如何なる方向に向つて、彼

等の意思を決定すべきであるか？

ヒットラーはかく自問し、而して之に對して次のやうに自答してゐるのである。

一つの簡単な物理的法則は此の事を教示する。即ち、多數の小さい力を集めて、一個の大なる集合力を作る爲に採る方法が此れである、と。

若し、吾々が、一個の物體に於て、多數の小さい個々の力を、全く不統一に作用さしたならば、其の個々の力は互に衝突し合ふものである。而も、その時、孤々の力はその物體內に於て消滅し去るのである。消滅すれば、例へ物體の内部に於て、非常に多數の分子が存在して居ても、その力は、一個の偉大な力となつて外部に向つて作用する事は不可能である。

此に反して、一個の物體の内部に於て、其の個々の力を或る一定に置いたならば、その個々の力是一個の大きな力として外部に向つて作用するものである。

此の簡單なる物理方則は、國民に於ても同様である。若し國民が軍事的にも、經濟的にも、そして又政治的にも、完全に無秩序に止るならば、其の時に於ては、國民の個々の力は抵觸し合ふであらう。さすれば國民全體として、他國民に對して政治的經濟的競争にも、文化的戰鬪にも、何等の優越をも持ち得ないであらう。此れに反して、全國民の力が、その國民と對立する諸外國に對して、同じ意向の下に統一的に結合せしめられるならば、其の時に於ては他國民との競争に於て偉大なる力を生じ得るであらう。

國民が自己の使命を知り、國粹意識の下に、國粹意向によつて政治的に強力なる統一を形成した時には、何等の國粹意識をも有せず、或は數に於て、文化に於て優れたる國民の集合である他國民に對しても、斷然自己を發露し、巍然として頭角を現はし得るであらう。

此の事實は何れの國民に對しても、何れの時代を通じて、普通にして妥當な

る自然法則であり、正當なる眞理ではないか。從來の過去に於ける一切の歴史は、見よ、此の事實を證明して居るではないか！、……と。かやうにヒットラーは思考して在來のドイツ歴史を顧みてゐるのである。

二

フランスの國民はルイ十四世の下に、將又ナポレオン皇帝統率の下に、國粹意識を基調とすることに依つて偉大なる政治的效果を擧げ得た。フランスの統一された國家的意向は、世界大戰の間四年に互つて、ドイツ軍の攻撃を防止し得たのである。

英國民は「ライト・オフ・ロング・マイ・カンツリー」といふ鐵則の下に國民的統一を實行して來た。其の國家的意識の統一が、今日の英國に見るが如き、あらゆる地點に宏大な領土を建設せしめたのである。特に英國民の國粹的統一的意向は世界大戰に於て具體的に示顯されたのである。

伊太利國民は、國家的意識と國粹意識の欠けた時代には何時も隣邦食餌となつて居た。然るに、ムツソリニーの出現に依る、急激なる國粹意識の昂揚は、即時伊太利國民の國家意識を強化し、其の對外政策に於て、以前に比較し得ぬ眞劍味を持つて來たのである。

少數の民族である、かのユダヤ民族は、他の民族の間に介在して、地上の凡ゆる民族の間に於て、最も強い國家觀念と、國家意向とを有して居る。ユダヤ民族は、此等の意識をその宗教にまで利用して居る。ユダヤ民族の最高の理想は、實に選ばれたる國民となると云ふ意識ではなかつたか。ユダヤ民族は神の思想までも國粹意識への奉仕に利用したのである。ユダヤの神はユダヤ民族に妥協して、地球上の一切の民族を併合して支配する如き義務を有して居る。そして幾世紀を通じて、地球上の凡ての民族、凡ての國家に一頭地を抜き國民的統一を企圖すべく自ら許して居るのである。

現在に於けるユダヤ民族は、他の如何なる國民をも制禦してその支配權を獲得し、財政上及び、新聞機關に依つて、ドイツ民族に臨んで制禦して居る。

ドイツ民族、量に於ても、質的にも歐洲の他國民に劣らぬ我がドイツ民族は、過去に於て、現在に於て、國粹意識の欠除に依つてのみ國民悲慘を経験して居るのではないか。國粹意識の欠除が他國民との競争に於て、如何なる結果を派生せしめるか、運命はドイツ民族を他國民と對立させる事に依つて、具體的にドイツ民族に知らせて來たし、知らせて來て居るのではないか。

フランス民族は、一途に國粹的に統一し、世界的文權を把握せんと努力して居る。

イギリス民族は世界貿易の獨占を企圖して居る。

スラブ民族は活動的にして緊張ある生活にいらして居る。

ユダヤ民族は勞働者階級を併合し、支配せんとして居る。

かゝる歴史に於て運命は、ドイツ民族の魂を他民族の精神の影響の下に、即ち、ラテン族の帝王主義の影響の下に、ユダヤ族の東洋的精神の支配の下に置いた。在來の歴史の示す所は、一切の民族の闘争場裡に於けるドイツ民族の失敗を記録して居る。ドイツ民族は、自己の運命を勝利に導くべき手段を缺いて居たのである。即ち、國粹意識と國民意向とを缺いて居たのである。此のドイツ民族の經驗したる内的意向の缺點が、ドイツ民族の勝利を妨げ、その敗因となつて居るのではないのか。

三

三〇年戦争時代には、ドイツ民族は、各自個々バラバラの信條を抱いて諸侯に仕へ、相互に鎬を削つて抗争した。此の恐る可き自己分裂に依つて、ドイツ民族の政治的文化的發展は幾世紀を通じて阻害され遅延されて來たのである。

漸くの事で、ホーヘンツォーレン家の指導の下にプロシヤにドイツ民族の意識

の芽生えが現れた。此の芽生え、即ち一部の民族意識の發生さへも、直にプロシヤ國の外交的成功を獲得し得た。プロシヤの國民は經濟的發展さへも強化し得た。

統一せる國民意識なく、ドイツ國民の個別的存在がドイツ民族をして、十九世紀の初期に、フランスの統率下に置かしめたものである。

自由戰爭に於て始めてドイツ人は、同一のドイツ國粹意識の下に結成してフランスの暴力を排撃し得た。然し此の結果も、同一國粹意向よりなるドイツ諸國の統一へとは發展しなかつた。そしてその結果はドイツ民族の新なる政治的意力を來したのである。

近代の英雄ビスマークは、ドイツ民族の大部分を國家意識の下に統率し得て、フランスに向つた。その結果、初めて、ドイツに朗かなる凱歌上り、ドイツ民族の國家的結成が成功した。ドイツ民族は始めて國粹意識、國民意識に統合せられ

たかに見えたのである。

然しながら、此れと同時に、今度はビスマルクの眼前に於てユダヤ的精神の侵害が生れて來た。

ユダヤ的精神はドイツ民族を相互に反目せる階級に分裂さし、各階級を、個々の利益の爲に左右せしめた。その二階級とは即ち市民階級と無産階級とである。

ユダヤ人の影響の下に市民階級は、一意、經濟の中に、利益の中に、金錢の中に、彼等の信條たる神を發見した。それと同時に、其のドイツ國民の仲間、勞働者、官吏傭人の經濟的利益と、その内的要求を踏みにつた。

他方、此れと同様に、ドイツ無産階級は、ユダヤ人の影響の下に、金錢の中に神を認め、市民階級を憎惡するやうになつた。彼等は、ドイツ民族よりも、却つて他人種に親しみ、ユダヤ人の赤き舌の前で國際的結合に浮身をやつし初めてゐたのである。

一九一四年に於ける、ユダヤ、ロシア、フランス、英國の、平和條約を楯としてドイツに加へたる攻撃は、市民階級、無産階級を含めるドイツ人の大部分に、等しく共同の危険を意識せしめた。そして數年間、あらゆる方面よりの攻撃に對して、國家意識國粹意識の共同感の下に反撃せしめ、敵國に向つて強力なる打撃を與へた。ドイツ軍は、ルーデンドルフ將軍の天才的指導の下にロシアの大軍を撃破し、フランスの領土に侵入し、世界各國聯合軍に對して不動の地位を保持し得た。北米大陸からの兵隊及び彈藥の大量さへも、國粹的に結束したドイツ國民の軍隊の上に、勝利を得る事は出来なかつたのである。

然し、戰鬪の進むにつれて、ドイツ民族の一致は、眞の國粹意識に依る共同感に依つて生れたるものではなく、そして勝利への意志から出たのでもなく、實は、單なる共同的危険の思想より生れたものであることが證明さるるに至つた。即ち、嚴密なる意味の國粹的觀念にまでドイツ民族は覺醒して居なかつたのであ

る。敵國の統率者達は、機敏に、ドイツ國民の此の弱點を觀破し出した。そして、賢明にも、彼等敵の指導者は、ドイツを擊破する爲めには、ドイツ人を以てすべしといふ方策を立てた。かくて、諸國の統率者とユダヤ民族の統率者の間に同盟が結ばれたのである。其の同盟の明かなる表象が、實に、バレスチナのユダヤ國建設に關するバルフォア港入港手續の問題である。

かゝる密約の下に、ユダヤ人は、ドイツ民族に對する戦ひを實行する事を引受けた。彼等ユダヤ人は、從來の諸經驗に依つて、如何に市民階級を取扱ひ、如何なる態度で無産階級に臨むべきかを心得て居た。而も、彼等はドイツ國民の内部に於て、市民、勞働者、兵隊に、強い影響を與へ得る地位、即ち、新聞社、政黨、野戰病院等の主要地位を占めてゐたのである。

彼等は勞働團體に向つて、ドイツ民族、特に勞働者階級は、ドイツの敗北に就いて何等恐れる必要はなく、戦争は正しく、カイザーと他の帝國主義者間の抗争

であるのみであると煽動した。かくて、マルクス主義の兵士は闘争心が痲痺せしめられ、ユダヤ人の電信隊は、戦線の背後でドイツ人の抵抗に對する戦ひさへも組織した。

彼等はドイツ労働者を誘惑して火薬工場のストライキを實行しドイツ軍隊に秩序を破壊せしめた。ドイツ民族の統一及び共同の危険から發生した、かの市民階級及び労働階級の國粹意識に對するユダヤ人の活動は、かくて完全に成功したのである。攻撃者に對する反抗は破れ、革命はドイツの戦線を軟弱化してしまつた。國民的反抗を呼び起し、組織する代りに、却つて、ドイツ民族は内部的に分散してしまつた。マルクス主義の信奉者はユダヤ人の傳令と妥協して、大臣の椅子を占領し、ドイツ民族に對するユダヤ民族の活動を具體的に援助したのである。プロシヤのバイエルンにはユダヤ人の總理大臣が座り、ユダヤ人民の爲に、新しい憲法さへ作成してしまつた。ユダヤ人は、今や、完全にドイツ民族の内外

政治の覇權を掌握してしまつたのである。ドイツ民族は、ユダヤ民族の支配の下に陥ちてしまつた。ストレーゼマン、ゼーリンウイルト等の如き人物は、正しくユダヤ族支配下に活動して居るではないか。

ドイツ國民團結の感情と意向に根據を持つべき、國粹意識の此の缺乏は、ドイツに於けるユダヤ人的革命を可能になしたのである。

若し、フランス人と、ユダヤ人とが、ドイツに於ける此の國民的國粹意識が、かくまで分散させられて居るといふ事實を知り得なかつたのであるならば、彼等は決して、此の凌辱行爲を敢て爲し得なかつたであらう。

若し、ベルリンに於て群集が、ユダヤ人の命令に従つて列國と調印せよと叫んでゐると云ふ事實をフランス人が知らなかつたのであるならば、恐らくベルサイユ條約の成立は見得なかつたであらう。

若し、ユダヤ人がドイツ民族に對して施した、十年間の教育の効果、即ち國際

主義、平和主義、共和主義に依つて國粹主義を抹殺することを考慮しなかつたのであるならば、かの奴隸的戰債支拂、ヤング案の成立はあり得なかつたのだ。

ドイツ國民の敵が、ドイツ國民の國粹意識の停止に依つてその勝利を獲ち得た様に、彼等はその勝利後に於ても、その經驗の甘味を忘れる事は出来ない。彼等は彼等の今後の勝利をも確保して行く爲に、ドイツ民族内に於ける國粹意識の培養を阻止し續けて行かんとして居る。

ユダヤ人は、ユダヤ人がドイツ内に於て、内外政治經濟の統率權を其の手中に收めんとするならば、彼等はドイツ魂を變形して、その特質と威力とを忘れてしまふやうに努力しなければならぬ事を知つて居る。かゝるが故に、ユダヤ人は過去十年間ドイツ國內に於て、ドイツ國粹意識の昂揚を、あらゆる機會を通じて阻害して來たのだ。彼等ユダヤ人は、彼等に依つて支配せられて居る、社會民主黨、及び中央黨の内部的聯結に依つて政治的權力を確立し得た。利益の共同は、

利益ある地位の分配に依り兩黨の全部の將校下士に分與せられた。

共同の憎惡は、ユダヤ人間に於て、中央黨の最近の通信者間に於て、ドイツ國粹意識に向つて起された。

その具體的行動としてユダヤ人は先づ市民階級に突撃した。

ユダヤ人は夙に、市民階級の魂の弱點、即ち、經濟といふ文字に對する弱點、及び、金の誘惑に對する弱點を知つて居た。それ故に特に經濟的社會に於て、外國資本殊にフランスの資本との經濟的協同に依るドイツ經濟の復活といふ蜃氣樓が手品の中に盛られた。そしてドイツ經濟の廣い範圍が、實際的に、ユダヤの愛人ストレーゼマンの意のまゝに動いたのである。

中央黨及び社會民主黨並に市民的幾多の黨派も、戰債支配の奴隸的條約に、自ら進んで自ら委ねたといふのは何んと言ふ皮肉であらうか。又、國民の國粹的意識から選ばれた筈の大統領が、ドイツ國民の奴隸條約に調印したとは何んといふ

愚劣さだらう。ドイツ國民は一致してユダヤ民族の勝利を助長して居るやうなものではないか。

此れのみでなく、ユダヤ民族は、彼等の政治的勢力を伸張し、ドイツ國粹意識の發揚を消し止めんが爲に、マルクス主義者及び中央黨の人をして、青年間に猛運動を起さしめて居る。

文書に、新聞に、學校教育に於て、平和主義、共和主義を理想として謳歌し、ドイツの英雄主義と國粹主義を引き下して居る。

ハイデルベルヒ大學のユダヤ人の講師グンベルは、ドイツの學生が世界大戰に際して、戦死せる不名譽の戦場に就いておしやべりして居る。傳導師シュトラートマンは、祖國防禦者に挨拶することを拒否するやうに説教して居る。バイエルンの文部大臣、ゴールデンベルケルは、公然とドイツ國民の仲間としてユダヤ人を取扱ふことを言明した。プロシヤの大臣ベツケルは、學生團體が、國民團體の法

則に従つて組織せられて居るといふ原因を以て大學生團體の解散を強ひた。國粹感情を告白し、或はユダヤ人といふ言葉を發言したドイツの大學教授、著作家、藝術家は、彼等の地位より引きづり下された。ドイツ民族とユダヤ人種との民族的相違を口にすることすら許されなかつた。

人種研究家、ギウンターの地位に對して、ユダヤ人は新聞に於て、政府に於て、大學に於て、一齊に攻撃した。チューリングンの學校に於ては、祖國の裏切に反對の祈りはなしてはならなかつた。中央大臣ウイルトが、學校問題に干涉した時、法廷は、彼がユダヤ人に仕へて居る事實を以て、彼に有利に判決を下した。

ヤング案に於ける、ドイツの奴隸的地位への轉落、平和主義、國際主義の謳歌と、之に依るドイツ民族の魂の消失。今やドイツ國民は、その本來の國粹意識を喪失して國を舉げてユダヤ人及び諸外國の併呑に奉仕せんとして居る。在來一切の歴史に於て、ドイツはドイツ意識の缺除に依り、ドイツの發展と將來を阻止し

て來たのだ。

失れ行くドイツの國粹意識、此れこそドイツの將來をしてユダヤの支配に委ぬる最上の原因である。ドイツ民族は舉つてドイツ國粹意識の下に團結すべきである。ドイツ國粹意識の撓まざる昂揚こそ、ドイツをその奴隸的地位より解放し、ドイツの獨立とドイツの自由を招來する唯一の國民的力であるのだ。國粹意識は將來のドイツ更生の力である。此の力の下に、ドイツ民族よ！一致して外敵にあたれ！

かやうにヒットラーは、獨逸在來の歴史を説明し、獨逸の現狀を解釋する事に依つて、彼の獨逸國粹意識の旗の下への統一を叫んでゐるのである。

四 ヒットラーの國粹主義と

ドイツ民族の國粹意識の發揚

—

上述の如く、ヒットラーはドイツ從來の歴史上に於ける、ドイツの失敗を、全く其の國粹意識の缺除に依つて説明して居る。

ドイツ民族の獨立と自由獲得の爲には、ドイツ民族の意向を國粹意識の下に結合することが絶對的條件であると説明するのである。一切の歴史に於て、その國の國粹意識の統一的結合なき所に成功せる國家なく、強力にして獨立不覇なる民族の存在なしと説くのが、ヒットラーの思想であり、従つて國民は須らく國粹意識に覺醒することに依り一致團結して外敵にあたれと主張するのが、ヒットラー

の根本精神である。

此の根本的精神の缺陥が、ドイツの歴史を奴隸の歴史に書きかへたと叫んで、ドイツ國民の國粹意識への覺醒を絶叫し、アピールするのである。

彼の此の主張は、然し、幸福にも、ドイツ國民の自覺に依つて、始めて具體的に支持せらるゝの日に直面した。即ち、一九三〇年の九月十四日の國民總選舉の日がそれである。

此の總選舉は、前にも述べた如く、ヒットラーの主義思想をして、一躍世界注目の焦點にまで高め、全ドイツの政局をして、ヒットラーの主張を默殺し能はぬ状態にまで導いたものである。

此の國粹意識の昂揚に依るドイツ國民の躍進と、此れに依るドイツ政局の變化の過程は、確にドイツ國民の一大轉向であり、ドイツ國家の一大轉機である。前述の如く、國內的にはその内政的局面に重大な意味を投げ與へ、外交的には世界

各列強の對ドイツ政策に決定的變更を餘儀なくさせたのである。

對外的關係に於て見れば、現在の、國粹意識的運動に動くドイツは、確に友國としても敵國としても、資本主義世界各國に對する一種の脅威であり、従つて、世界外交史上に於ける對獨關係の變更を招來する。

現在既に明白な事實となつてゐるものには、伊太利の對獨好感の現象があり、英國の對獨政策の變化がある。

伊太利は從來よりフランスの暴力的霸權に對して決定的反感を有して居り、此の點に於て、ドイツの國粹社會黨の對フランス政策と一致するものである。

英國は、世界大戰を通じて既にドイツの艦隊を掃蕩せる今日に於ては、英國の世界貿易場裡に於ける不安は一掃されて居るし、此の事より寧ろ英國は歐洲及び亞細亞に於けるボルセヴィキの勢力擴大に危険を感じて居る。そして又、歐大陸に於けるフランス軍國主義の戰鬪的意圖に對して脅威を感じて居る。此の意味に

於て、英國は新興ドイツと英國の利害關係を有するものであり、ドイツを支持してロシヤの南下に對する楯となし、フランスに對する矛となすことは英國の現在の位置の安全を保證するものである。

フランスは、現在まで、英國及び伊太利に對して何等の顧慮も拂はずにヴェルサイユ條約を以てドイツを強制することが出来たのである。それが上記の如き英伊の對獨關係の變化に依り、最早フランスは英伊と共同的動作を目算する事が出来ず、ドイツの對佛敵意の昂揚を意識し、國粹意識に燃え行く新興ドイツに對して恐怖を感じ初めたのである。

二

列國の對ドイツ外交政策が、ドイツ國內に於ける國粹社會主義的運動の興隆に依り、根本的に變更されたと同様に、對内的には、ドイツの政治局面も一變された。

九月十四日の總選舉に依るヒットラーの勢力の擴大に依つて、社會民主黨、中央黨の指導者達は、明白に彼等のドイツ民族に對する支配權の崩壞を意識せざるを得なかつた。

従つて、其れ以後の彼等政府當局者の意圖の、基本的に、彼等の現在の支配的位置を如何やうにして保持して行くかに専念されたのである。此くの如き意志の下に彼等の對ヒットラーの國粹意識への政策は、唯一途にその勢力の阻止へと向けられたのである。

社會民主黨、中央黨の領袖達は、一方に於て、ドイツ現在の財政的經濟的危機を強調する事に依つてドイツ國民のヒットラーに對する注意を防止せんと努め、又、他方に於て、大統領ヒンデンブルグを利用して強制的にヒットラーの國粹運動の抑壓に努めた。彼等は、「最後の場合に於てはドイツ國の憲法の名に於て國粹主義の運動を彈壓」せんと意圖して居るとの國粹社會黨の宣傳も、社會民主黨中

央黨對ヒットラー黨の現在の抗爭狀態より批判すれば恐らく事實となつて現れる日も近からう。

獨逸戰債支拂案たるヤング案が、ドーズ案に代つて提出された時には、ドイツの負擔輕減の爲めの唯一の案として歡迎した社會民主黨及びその一派の政府當局者が、僅か一年も経ざる今日に於て、そのヤング案を以てドイツ民族の耐え得ぬ重荷であると宣傳し初めたる裏面には、國粹社會黨の異常の發展が介在して居るのである。寧ろ率直に、ヤング案が實質上ドイツ民族に對する重荷であるが爲にその撤廢を要求するのではなくて、實は政府當局者は國粹社會黨に對する國民的意向の歸著を恐れて、政策的に主張して居ると解釋する方が正鵠であらう。

兎もあれ、獨逸國民は如上の意味に於て國粹意識の下に轉向しつゝあり、獨逸國家の對内、對外諸關係もそれに従ふて變化しつゝある。獨逸今日の政府に於て社會民主黨中央黨等一連の爲政當局者が、彼等自身の主張と政策に依つて、獨逸

國家の崩壊と、併せて彼等自身の爲政的位置よりの轉落を防止し得るか否か？

將又、獨逸國粹社會主義の主張の下に、獨自の政策と魅力を持つ獨逸社會勞動黨が獨逸民族を救ひ、新興獨逸國家を建設し得るか？ 一切は總て歴史に任す可きである。

然しながら、何れにせよ、内外政治的に、經濟的に文化的に、獨逸民族最高の目的に向つて新興獨逸の建設されて行く日も、さう遠くはあるまい。

獨逸國粹社會黨首アドルフ・ヒットラーは、かゝる民族的國家の建設を豫期して、「吾々は生存の保證と吾が種族と吾が國民の繁榮の爲め、吾が子孫の扶養と吾が血族の純潔の爲め、そして祖國の自由と獨立の爲に鬭爭せよ、かくてこそ吾が國民は、宇宙の創生主より與へられたる吾々の使命を實現する事が出来るのである」と、名も奇しき鳶色の家から絶叫して居る。

五 ドイツ國粹社會黨の一般的指導原理

一

以上は、ドイツに於けるヒットラーの主張の極めて一般的な素描であり、由來であり、皮相的説明である。従つて其れのみにては、現在、ヒットラーの國家社會主義の具體的主張が如何なるものであり、その現實に於ける鬭争の指導的原理が如何なるものであるかに就いては、従つて又、ヒットラーの思想と主義の全貌に就いては視ひ得ないであらう。

従つて、此の章に於ては、簡單ながら一應ヒットラーの根本的原理と現段階に於ける主張の一般の説明を試みて見ることにする。

國家社會主義の基本的哲學的原理の解釋に就いては、此處に於て、詳論するよりも、寧ろ、他の機會に、國家社會主義一般の問題として、充分詳論する可きであらう。特にそれが現實的問題として提唱されて居る現在に於ては、その妥當と普遍性に就いては充分研究する可きである。その思想の根本的原理は、之を敢て一言にして盡すとすれば、終局的にはあらゆる生活原理の根本を爲す生産手段の國有即ち國家的統制の下に置くことを意味するものである。而して、共產主義、社會主義の等しく國際主義を強調するに對して、此れは各民族の各國家の有する特殊性を強調するものであり、その特殊性を持つ各國家内に於ける、社會主義的制度の確立を企圖するものである。

現在、ドイツに於ける國家社會主義も、客觀的に見れば、ドイツ國家の有する國家的社會的特殊性に基礎を有して居る。従つて、ドイツ國家社會主義の指導原理も、現在のドイツの社會的狀勢に根ざして居るのである。

大戰後より現在に到るドイツは、戰禍に依る疲弊の上に、戰債賠償の地位に置かれ、その支拂額は實に天文學的數字の多額に上り、ドース案の成立より、ヤング案の成立へと、一步一步改訂せられながらも、實質的にドイツの蒙る負債支拂ひに依る打撃は、ドイツ國家の經濟を完全に崩壊させてしまつて居る。

而も、一九二九年アメリカに端を發したる世界經濟の未曾有の不況は、さなくとも困難にあえぐドイツ財政經濟に致命傷を與へた。失業者は四百萬を越え、銀行は閉鎖され、企業は倒壊した。ドイツ國家は、今や經濟的に完く死滅の前夜に立たされたのである。

ドイツ國家の經濟困亂は延ひて、社會的、政治的無秩序を招來した。そして此のドイツ國家の示す無秩序に依る犠牲は、主として、獨り、單純にして素朴なる勞働者階級に依つて拂はれたのである。ブルジョアジーは、打撃を受けながらも、外國資本家と策謀提携することに依つて彼等の搾取的地位を保持し得た。か

くて少數資本家の繁榮に反して、一般無産大衆の生活は益々困難になつたのである。

他方、政治生活に於ては、ドイツ國權黨を初め他の右翼的諸政黨悉く専心政權慾にのみ汲々とし、大衆の日常的要求を無視して屢々政府と結んで國家的百年の計を忘却するの行動にのみ努めた。

秩序を維持すべき軍隊と警官は政黨化して獨り社會民主黨系の人物の掌中に動き、彼等の利害の爲にのみ左右される現狀を呈するに到つたのである。

此の國內的狀勢に際して、ドイツ國家主義黨は、

「ドイツ今日の社會的困亂は、ドイツ民族の國粹意識の缺除に遠因し、ドイツ今日の困亂は、又、ドイツ既成諸政黨の黨人的私利益に近因し、一切のドイツの持つ外交的恥辱と、ドイツの有する一切の經濟的不況とは、之れ總てドイツ國家を念とせず、私利害にのみ汲々たる諸政黨の責任であり、而も、彼等は今日既に、

現在のドイツを救出する何等の力も有たないものである。」と、解釋し、ドイツの現狀に則して、ドイツ現在の崩壊を救ひ得るものは、獨り、ドイツ民族の國粹的統一の下に立ち、利益の前に公益を絶叫する國家的政黨、國家社會主義黨より以外にはないと、自負して起つたものである。即ち、ドイツ國家社會黨は、ドイツ國家の秩序を守護する爲、最も忠實なる傭兵として立つものであり、ドイツの混亂を整理し、無規律を規律化せんと志すものであると主張するのである。

彼等は、一家庭に秩序が必要なる如く、國家の生活に於ても嚴然たる秩序が必要なりとし、全國民が密接なる祖國愛の旗の下に結合して、各自眞に、國家の秩序と組織の一員なるを自ら覺るの時、始めて國粹社會黨の理想とする理想國家の顯現を豫期することが出來ると主張するのである。

此の見地に基いて、國粹社會黨は、(イ)、公益の前に私慾の存在を許さず、(ロ)、不義の利得を許さず、といふが如き簡潔なる標語を以て彼等の指導原理を説明し

て居るのである。

公益の前に私慾を許さずといふのは、各自先づ公務につくの心掛けを持ち、國民全大衆の福祉を目標として進むの覺悟を有し、此の目的遂行の爲には、何時でも彼等の生命を抛げ出すの覺悟を以て闘争することを念として居るのである。そして此れこそ、眞實の社會主義の要綱にして、又同時に一般大衆の生活の本旨でなければならぬと主張するのである。

又、不義の利得制度を打破するとは、指導者ヒットラーがその著「吾が闘争」中に於て主張する如く、「國債支拂と國際資本の横暴」に對する闘争を意味し、「此の闘争の勝利こそ、始めてドイツを解放する唯一の手段である」と斷言して居るのである。

以上の如き國粹社會黨の主張も、然しながら、又、そのドイツの歴史解釋に於て口を極めて痛言した如く、實にかのユダヤ人問題を解決して初めて解決され得

るとする。ユダヤ人は國際資本を動かし、ドイツに於ける金融財政を左右する。ユダヤ人、及び彼等の一派は、單なる彼等自身の利害關係にのみ専心して國家公衆の利害關係を度外視して居る。かゝる故を以て國粹社會黨は最も極端に反ユダヤ主義を表明するのである。事實、現實的に一般國民大衆は、彼等ユダヤ系一部少數資本閥の飽くなき利益の搾取の爲めに、全く奴隸的存在を強要されて居る。彼等大小の少數資本家企業家の眼には只利益觀念のみ在つて、窮すれば直に國民の利害を超越して債を發し、之に莫大の利子を支拂ふを意に介せず、その利子の支拂を全く彼等の奴隸、即ち一般國民大衆に轉化して、益々彼等の利慾を完了する。彼等の利益は増大するに反して、勞働者農民の利益は搾取される。中産階級以下の被壓迫大衆は過重の負擔に苦惱し飢餓狀態に突落される。加ふるに戰債賠償は國民二重に縛る。

一部少數財閥は國民全般の苦惱に反して益富み、二者の間は益々深くなる。眞

にドイツ國民大衆は奴隸的地位に傳られて居る。故に國粹社會黨は、ドイツの兩黨と安寧と文化の爲めに一般勞務者の勞力を尊重すると共に、かの暴漫なる一少數ユダヤ系財閥の利益主義を排撃する！此の二大方針こそ國粹社會黨の有する根本的指導原理であると主張するのである。

國粹社會黨は、又、左翼共產主義の思想、「資本主義の打倒」に對して、共產主義は實は資本主義の打倒ではなくして、破壊であり、何等の建設なしと、ロシアの現状を指摘する事に依つて反駁する。此の意味に於て、反共產主義を主張するものである。

六 ドイツ國粹社會黨の政策綱領

一

以上は、ドイツ國粹社會黨の主張する基本的指導原理であるが、同黨は、此の基礎的主張の上に立ちて、祖國の自由と獨立の爲に、現段階の社會的狀勢に則して、その鬭爭の政策と綱領を具體的に決定して居る。

同黨の政綱は基本的には、一九二〇年二月二十五日、ミュンヘンに於ける國粹社會黨第二回全國大會に於て決定されたものである。

同政綱は左の如き全綱二十ヶ五條より成立して居る。

政策綱領

全獨逸無產階級を以て構成さるゝ我が國粹社會勞動黨の運動方針は、既定の漸進主義を採り、第一段階の完成後、更に第二段階の方針を決定し達成せん事を期するものである。

吾等の政策綱領は次の如し、

1、吾等は全ドイツ國民の自主權を基本としたるドイツ民族の一大結合を企圖する。

2、吾等はドイツ國民も又他國民と同等に、その權利を有するものなることを主張する。従つて、ベルサイユ條約及びサンゼマン條約の廢棄を主張する。

3、吾等は、ドイツ國民の生存と、過剰人口の移殖の爲に、領土及び植民地の保有を要求する。

4、公民權の所有は國民たり得るものに限る。而して國民たり得るものは、ドイツ民族たるを要する。故にユダヤ民族は公民權を有せず。

5、公民權を有せざるものは、單に客民としてドイツ國內に居住し得るに過ぎず。

6、國家の行政、立法、の決議權には公民のみ之に干與し得。故に吾等は、國家は言ふに及ばず、ドイツ全聯邦の自治機關に於ける凡ての官公吏員はドイツ國民を以て充當すべきことを要求する。

7、吾等の要求は、ドイツ民族の生存を保證するに在る。従つてドイツ國民の生存困難なる場合に於ては、市民權なき他國民を國外に追放すべきものとする。

8、ドイツ國民に非ざるものは、今後ドイツ國內への移住を禁ずるものとする。而して、一九一四年八月二日以後に移住し來れるドイツ國民以外の國民に對しては、國外追放を強要する。

9、ドイツ國民はすべて同等なる權利及び義務を有するものとする。

10、ドイツ國民はすべて心身を鍛練するの義務を有する。但し、個人の行動は常に團體的生活に基準し、公衆の福祉の増進達成を目的とする。

11、勞働、勞力なき收入利得の廢棄を要求する。

12、戰時中に於ける全國民への賦課は、生命財産の莫大なる犠牲を要するにも拘らず、他方、戰時に於ける巨萬の利得を畜積するものあるは、明かに國民より剝奪せるものである。此の意味に於て、吾等は戰時に於ける利得收益を嚴重に檢閲するものである。

13、吾等は在來のトラスト企業の國有化を主張する。

14、大企業に於ける利得の適當なる分配を主張する。

15、養老救貧法の擴張と充實を企圖する。

16、健全なる中等階級の發生と之の維持、大官營業の共有と、之れの小企業者への安價貸與、及び、總ての企業の國有資本下への統制。

17、國民の全要求を基本として、大衆の目的に一致したる土地法を制定する。

同時に地價利子、土地の投機的賣買の禁止を實施する。

18、吾等は公安を害する、あらゆる行動を否認する。大衆の安寧と福祉を毀損したる罪人、奸商、高利貸等に對する處刑は死を以て充當する。

19、吾等は世界的唯物主義、マルキシズムに對して斷然たる闘争を實行する。

20、有能にして格勤なるドイツ人の教養の向上を企圖すると共に、其の後繼者の指導を完うする爲に、國民の統一的教育機關の設立を主張する。而して、學校教育の要旨は、實際生活の要求と合致せしむると同時に、國家觀念の基本的培養を達成することを要求する。

21、國民の健康増進に對しては次の如き方策を採用する。

母體及び兒童の保護、未丁年者の勞働禁止、武技體育に依る身心の鍛練、青年の訓練に従事する諸協會の奨勵。

22、職業的軍隊を廢止し、國民軍の編成を期する。

23、政治的虛言及び印刷物に依る之等の宣傳には嚴重に抗爭する。而して此等
を實行せんが爲に次の如きを主張する。

一、ドイツ語新聞の記者は全部ドイツ人なるを要する。

二、非ドイツ人系新聞は發刊に際して國家の許可を必要とする。同紙面に於
てはドイツ語を用ふ可らず。

三、ドイツ語新聞に非ざる新聞紙系の者は、ドイツ新聞に對する財政的侵犯
干與を爲す可らず。

公益を害し、又は國家の安寧秩序を毀損するが如き藝術及び文學等も之を
嚴禁する。

24、宗教に關しては一般に自由とする。但し、ゲルマン民族の風俗及び精神と
相容れず、又は危險思想を包含するものに對しては此の限りに非ず。

吾等の宗教に對する主張は基督教とする。吾等はユダヤ教の唯物思想に對しては極力之を排撃する。而して國家的理想は飽くまで達成せざる可らず。公益の前に私慾の存在を許さず。

25、以上の各項の實行機關として、吾等は次の如き機關の存立を要求する。

- 一、鞏固なる國家の中央行政機關。
- 二、國家總體より組織されたる中央行政會議。
- 三、地位、職業的各代表を以てする議院制度の確立。

吾が黨は以上の政策綱領の實現の爲には、敢て生命を賭するも辭せざるものとす。

此處に宣誓す。

一九二〇年二月二十五日

於てミュンヘン市

獨逸國粹社會勞動黨第二回全國大會。

以上の如くドイツ國粹社會勞動黨の政策綱領は、全綱二十五ヶ條より成立して居る。

如上の綱領中に於て、飽くまで其の中心となるものは、ドイツ民族主義に依つて結合されたる、鞏固なる基礎の上に、其の理想的國家を建設すること、その國家統制の下に、不當利得の打破と、公益の前に私慾なき制度の實現を企圖するに在るのである。

ドイツ國粹社會黨の主張は、實に搾取飽くなく資本制の撤廢と、その國有化、及び、此等の經濟的基礎の上に打建てられたる一般大衆の平等なる利益の配分享受を目的とするものである。此れこそ、その黨首アドルフ・ヒットラーに依つて

數度宣言せられたる如く、ドイツ國粹社會勞働黨の闘争方針であり、精神である。従つて亦、此れこそ現在一千萬ドイツ民衆に依つて支持さるゝ同黨の生命であるのである。

以下、此の政綱に就き此れを中心として、もう少し説明を加へて見度いと思ふ。

二

ドイツ國粹社會黨は、以上の如き政綱を基本として、「獨逸民族を基調とする獨逸國家をして、獨逸精神に依つて再び創生せしむる爲に」闘争しつゝあるのであるが、同黨は、此の目的を遂行するが爲に、上記の政綱を中心とし、それより派出せる具體的政策を、國家、財政、經濟、社會、文化等々の諸部門に分割して決定して居るのである。

一、先づ第一の國家政策に於ては、「獨逸は獨逸人の國家であり、故郷であり」、

とは決して、ユダヤ人、露國人即ち共產黨及び祖國を知らざる社會民主黨の郷土ではないとし、此の認識の下に、先づドイツに於ける公民の規定を誤りたるワイマル憲法に反對して居る。

そしてかゝる主張の下に、外交、民族問題、ドイツ國民の公民權の問題を規定するのである。

外交政策に於ては、先づ、ドイツ民族の自由の爲にドイツ民族を打つて一九〇としたる強國の建設を期する。而して、尙もドイツ民族の居る所は之を獨國に統一することを要望するものもある。唯、領土の所屬決定に於ては其の住民の決議に一任するものであり、干涉を排する。而して、之の手段を以て、最も母國の名に相應しきものと主張するのである。

大戰後の條約に依り他國に奪取せられたる領土、例へば東部北部ドイツ、及びアルサスローレント、舊オーストリア領土等に對しては、ドイツは何等之等を奪

取さる可き理由なく、従つて此等は總て同地住民の自決に基きてその歸趨を決定すべきであると主張するものである。此等の諸點より推定するも、同黨の諸外國に對する外交的方針が、強硬なる獨逸の利益擁護を主張するものであることは白明であらう。

ドイツ民族問題に於ては、獨逸民族を以て主とし、非ドイツ民族、特にユダヤ民族の官公機關への參與を嚴禁し、既成在官者の退官を要求するものである。此の主張は、ドイツ國粹社會黨の最も明瞭なる要求事項であり、ユダヤ人の異端者的害毒に對して、決定的の増惡を抱く同黨として必然の要求である。

又、ユダヤ人及び不正なる外國人の入國を一切禁止すると共に、從來ドイツ國內に居住する外國人にして、ドイツ國家に害毒を流す者に對しては國外追放を強制する。

公民權、即ちドイツ民族の權利の問題に於ては、獨逸の文化と風俗を踏襲し、

保有する獨逸人にのみ公民權を附與し、獨逸國內に生れたる者でも、獨逸民族に非ざる者には永久に公民權を附與しないものである。彼等に對しては唯單に客民としての地位を與へ、國內に居住權は有するも、ドイツ民族と同等なる權限は附與しないのである。然し、此の事は徒に外人を排斥するが爲の主張ではなくて、外人にして獨逸に害毒を與へざる限り、彼等の安住は保護するものである。唯彼等には、權利の主張に於て獨逸人に對して優先權なき事は言ふまでもない。

二、第二の經濟政策に於ては、資本に依る不當なる利得收益に對して可及的に減殺の手段を採り、かくすることに依つて一般無產大衆の貧窮を保護することを主眼とするものである。

現在のドイツの經濟狀勢は、勞働者、消費者は過大なる間接的銀行利子の負擔に苦しみ、大企業家は、唯收益の増加のみを事として一般大衆の公益を念とせず、社會狀勢は從つて益々惡化する一方である。眞に國民を知るの企業家の態度

は常に民衆の欲求に應じ、自己の利益を最少にして賣價の低下を企圖すべきであり、勞働者の生活の向上に努力すべきである。不幸にしてドイツにかゝる企業家なく、而も、大商業資本家は等しくユダヤ系であり誘惑を事として不必要にして高價なる商品を賣る。彼等の利益第一主義は延ひて小營業者の破滅を導き、中産以下の階級は日に逐ふて崩壊しつつある。

かゝる現状よりして、國粹社會黨は、需要品の安價供給と、社會の下層級の保護を企圖し、私有財産制、大企業等に對する一般方策を決定するのである。

私有財産に對しては原則として之を認むるのであるが、國家の統制と保護を受けるものとし、併せて國民の健全なる發達の爲に、無限の富の蓄積と集中を許さず、無限の私有財は現在の不法利得主義の根元を爲すものであり、又社會一般大衆の見地よりするも限界ある私有財産を以て満足すべきものであるとの論點より私有財産の一定の限界を決定する。

又、勞働の義務と私有財産の認知の見地に立ちて、各個々人は營業權と勞働契約權とを有するものとする。而して、大企業制に對しては一般に軍事的工廠又は造船所の如き特殊なる工業は別とし、大企業的集中主義に反して小企業小營業主義を以て勝れるものとする。

社會公衆の扶養及び文化の爲には、全國民に依つて統制さるゝ齊一なる機關の設置を企圖し、其の他農工商業の健全なる發達の爲には、各營業の合理的なる合同媒介を劃する。

價格を釣上げ、又はダンピング等に依つて國民經濟を攪亂する者には死刑を宣する。かのインフレーション時に於ける奸商の如く、勤勉なる國民の財産を奪取して私腹を肥すが如き、之れ當然白晝の強盜にして、死を以て刑するも敢て充分であるとするのである。

而して、又、國民各自は、國家經濟の健全なる發展の爲に、年齢に依る勞働義



務を課すると決定して居る。

最後に、經濟政策の中心を爲す大企業會社に對する政策としては一般に國有化を主張し、之に依つて現在の大資本主義に對抗するものとして居る。即ち大營業の國有化に依り、資本主義制下に於て、トラスト・シンデゲート等の組織に基く市場價格の獨占を防止し、加へてその生産上に於ける長を採り、國家統制の下に眞に公益に資すると説くのである。

此に加へて中小營業の合理化を實行し、品質の精製と價格の低下に依つて一般消費者を保護すると主張する。

三、財政政策に於ては、金融及び金融機關は國家の爲に存在するものであつて、國家を支配する爲の存在であつてはならない。とし、かゝる理由を以て、不當なる利得は打破すべしと主張し、國家及び國民の資本及び大債務よりの解放、金融機關の國有、保證本位制による通貨の使用。公債、紙幣、銀行等の株式會社

の國有を主張する。

此の外官營事業に對する費用は公債に依らず、國庫よりの無利子貸與支出を以てすること、その他一般に、公共銀行を設立して無利子貸與を行ふこと、及び社會經濟の見地に立つ税制の改正と、生産、消費者に課する税額の可及的減額等を掲げて居る。

四、社會政策としては、獨逸國民の日常生活に窮する現状と、加ふるに列國への戦債支拂に依る打撃に直面して、愈々其の打開策の必要を痛感し、大衆の健全なる明日への發達を眼目として、國有養老保險制度の擴大と確立、一定年以上の老衰者、勞働不能者に對する救護、生産企業に依る利益の、責任能力年齢等に依る分配制度の確立、不正手段、即ち戦争革命奸商等に基く不當利益の沒收と、此れを財源としての社會救濟事業の擴大、及び住宅難を解決する爲に公共銀行に依る無利子支出とそれに依る住宅の増築等を規定して居る。

五、第五の文化政策に於ては、自由の爲の政治と、健全なる國民經濟の國家に於てのみ麗はしき文化と學藝の花は咲くとの要旨に依り、ドイツ民族の民族的文化の發展を期するものである。此の爲に、獨逸魂の涵養と、強壯にして自由なる身心の保全の爲めの國民教育を實施する。而して、宗教と學術の研究は原則として自由なると、宗教に於ては特にキリスト教を尊重し、ドイツの精神と風俗と相容れず、ドイツ民族の安寧を攪亂する宗教に對しては反對し、キリスト教に害ある芝居、寫眞、刊行物等は排撃して居る。學校教育の自由は認め、其の指導者に對しては人格の向上を求めて居る。かくすることに依り、現在に於けるユダヤ人の影響に依るドイツ民族の文化の俗惡化を根本的に清算して、ドイツ民族の有する本來の精華にまで復興せしむることを強調するのである。

六、軍事その他に對する政策。軍事に對する政策としては、現在の金融資本家を擁護する職業的軍隊を撤廢して、國民軍を編成する。而して現在の職業軍隊中

に於ける優秀なる特權と國民軍に依つて、祖國の防禦を完全ならしめんとするのである。

其の他の政策、例へば選舉に對しては、現在の選舉法は風俗に反するを以て之を改正し、職業と地位を代表する議會を召集する。その他土地法を改正してその所有權、使用權、賣買法を獨國民の要求に合致さし、刑法、民法等も各人の名譽と健康等に主點を置いて改正することを期する。

最後に獨逸國體に關しては、獨逸主義に適合する元首を以て統制し、元首は國民の選舉に依る皇帝又は大統領を以てするのである。

現在に於ける各聯邦主義は之を存續さし、各州に於ける自治權は益々擴大し、その内政全部を州政府の掌中に委ねるものである。

三

以上は獨逸國粹社會黨の主張する政策綱領の概要であるが、獨逸國粹社會黨

は、以上の政綱の達成に就き、現在の獨逸の有する社會制度、即ち資本主義國家としての獨逸に對し、及びその體制下にある現在の代議制度に對して猛烈に反對する。それと共に、現在獨逸に於て最も勢を逞ふするマルクス主義を以て不俱戴天の仇敵とする。此の三者を打破するに非ざれば、獨逸民族の祖國獨逸の建設は望むことが不可能であるとするものである。

資本主義國ドイツに對する抗爭は、現在に於ける金權支配下の獨逸を意味するものであり、獨逸を金融資本の支配より解放せんとするものである。

議會制度に對する闘争は、制度それ自身に反對しての闘争を意味せず、現在の代議員、即ち自ら獨逸人民の代表者と稱する人々の、無責任に依る代議制度の現在の腐敗に反對闘争するものである。而して、此くの如き腐敗せる代議制度に依りて支配さるゝ現在の政府に對して反對するのである。

マルクス主義に對する闘争は、ユダヤ人カール・マルクスに依つは體系附けら

れたる唯物史觀に依る社會變革に反對するものであり、彼等の煽動の結果、國民は階級闘争を起し、私有財産の否定が國民經濟を破壊するものであり、何等の建設を意味せざるが故に反對するものである。

要するに此等三個の仇敵に對して、抗爭しつゝ獨逸國粹社會黨は全獨逸民族の旗の下に、眞に國家の困亂と無力を打破して、強國獨逸の再生の爲に戦はんと宣言して居るものである。獨逸國家社會主義は、資本主義と之の體制に支配せらるゝ獨逸の現状に對する最も勇敢なる、而して最も力強い反逆の運動である。

彼等の旗は、ゆかしくもゲルマン時代の祖國を偲びて黒灰色地の上に、獨逸民族の永遠の若さを表明する血潮の鈎形十字を以てする。

吾等は鈎形十字の勇士

父

赤き旗を高らかに掲げて

祖國ドイツを吾が肩にないつゝ

朗かに進め！ 自由の路

七 ドイツ國粹社會黨の宣傳方法に就いて

一

獨逸國粹社會黨は日常の鬭爭を通じて宣傳に努力して居る。宣傳に際して、彼等は都會地と田舎地とを區別し、その宣傳の方法も、夫れに應じて夫に考慮を拂つて居る。蓋し大都會に於ける住民は地方の住民に對して政治的意識に富み、知識的であるからである。

然し、其の宣傳機關の種類は殆んど大同小異である。黨員はその黨の宣傳に際し、嚴密なる組織的統制の下に動き、民衆生活の基底に觸れることを中心として居る。そして、黨の擴大強化の爲には敢て生命をも辭せぬ覺悟の下に働いて居

る。

宣傳の組織としては中央に中央宣傳部を設置して、宣傳の統制と聯絡の便に資し、此の指導の下に地方に數個の地方宣傳部を設置して、中央の宣傳を助成して居る。各地方宣傳部は其の區域内の宣傳に全責任を負ひ、その下に又數個の宣傳支部を設けて、宣傳を實施させて居る。

宣傳支部はかの突撃部と密接なる聯結を保持してその宣傳的効果の擴大を圖つて居る。而してかの突撃部は、特に街頭示威運動、黨大會その他の會合に於て其の課せられたる本分を發揮するべく設置されたものである。

宣傳に要する各種の材料は主として中央宣傳部より、各支部に給與せらるるものにして、各支部は之に依つて宣傳し、各支部に於て特別に文書及び宣傳畫を起草して宣傳に資することは敢てせぬやうにして居る。但し、それも原則的にであり、必要あれば各支部獨特の宣傳も許可して居る。選舉等に於けるが如き場合に

支部の獨斷を必要とする場合は、豫め示されたる黨中央部の計畫と照合して後、之を實行することに決定して居る。

二

宣傳機關として國粹社會黨の採用し利用する所のものは、文書に依る宣傳、言語に依る宣傳、示威運動、その他文化的催物等であり、凡て現社會の具體的精勢に則する生氣ある事業を取扱ふことを主張して居る。之の必要の爲に常に社會の動靜に忠實に注意し、機を俟つて之に乗ずることに努め居る。

一、文書に依る宣傳に於ては、貼紙廣告、配布紙、號外、新聞、パンフレット、家庭新聞、工場新聞、廣告柱、印章、手紙類、運搬畫、線路及び屋窓廣告、等をその主なる方法として採用して居る。

此の中、貼紙廣告は、ビラ、ポスター類を公衆の注意をひく場所に貼布するのであり、次々に新しきものと交代さすべき方法を採つて居る。配布紙は簡單なる

内容、例へば、「××紙は我等の友」といふが如き標語を印刷して配布するものであり、尙此の上、漫畫、色彩を加へて配布する。「自由とパンを求むる者は我黨へ」、「マルキシズムに反對する者は國粹黨へ」等には其の例である。而して此の配布紙は一旦配布後、買収する方法を持つてその効果をあげて居る。

號外は適時發行して黨の宣傳に資する者であり、一般に勞働者街向きは可なり過激なる語を用ひ、一般市民向きには斷片的文字を使用して居る。

新聞が、黨の宣傳機關、即ち意見の發表、黨の意志の發表に就て最も効力多きことは今更説明する必要はない。現在國粹社會黨系の新聞は全國無慮七十數種の多きに上つて居る。

パンフレットは、或る特定の問題等に就き、國民をして眞に事件の本質と、それに對する黨の方針を知らしむる爲に、日曜日等に家庭向き、列車中向きに作成されるものである。

家庭新聞は普通の新聞と大同小異であり、工場新聞は、各工場別々に使用する新聞にして、労働者の日常の具體的要求と、その政治問題を取扱い、労働者の興味を呼ぶ媒介體となすものである。

度告柱は、黨の大會、示威運動等に際して行人の注目を求むる爲めにするものであつて比較的宣傳的效果の大なるものである。

印章とは、黨の徽章を郵便物、新聞等に印刷して使用するものであり、最も簡潔にして最も効果多く、時に此の印章と共に數文字の過激文字を使用することもある。

手紙類に於けるものも之と同様であり、運搬畫は行列の先頭等に立て、短かい黨の標語等を書き交せたるものである。

線路及び家屋の壁等に於ける廣告の極めて有効なる事は、今日日本に於ける車窓より眺むる廣告の効果を見ても首肯し得るであらう。

二、言語に依る宣傳。此の方法に於ては主として、個人的談合、懇談會、大會、合唱等を實行する。

個人的談合は其の効果最も大であり、懇談會に於ては、一般的大衆と意見の雜談的交換に依り、極めて打ちとけて黨の一般方針等と説明する。各宣傳部に於て主として毎月二回位の割合で開催するを例として居る。若し大會を開催し得ざる場合には此の回數を増加して、その補助的役割を實行する。對論會も開催する事があるが、その會の内容等は懇談會と殆んど同様である。

大會は黨の方針を大衆にアピールする最大の會合であり、その開催に就いては大衆の要求を參酌して時と場所とを撰定する。大會に當りては、論者は豫め該地方の政治的情勢に通ずる必要があり、黨員の全出席と、大會防禦の爲に突撃隊をして警戒せしむるを必要とする。又、大會の指導は黨主自ら之を爲し、大會閉會に先立ち、黨主は短い四五分間位の力強い主張を演説する。反對黨の野次やその

他の壓迫に對して論者を徹底せしむる爲に、黨員は抗爭する必要がある。大會中の對論は之を印刷して參會者に配布する方法を採り、最後に大會は、獨逸國粹社會黨の萬歳を三唱して解散することとなつて居る。

合唱は路上又は公園等に於て會合する時、黨の有効なる標語等を、音歌の下に合唱する方法であり、大會、示威運動、又は選舉戰等に於て最も有効である。

三、示威運動。黨の突撃隊を以て主として此れを構成し、嚴格なる黨の規律を示して、黨の最も効果多き宣傳を爲すものである。

四、文化的催物。之れは主として劇場、活動寫眞、展覽會、等を指すものであり、其の効果は莫大なるものである。而して此れは、宣傳的役割を持つと共に他方黨員及び一般大衆の慰安的催物としても有効なものである。

以上は獨逸國粹社會黨の現在採用せる宣傳的方法の主要なるものである。此等に依る宣傳の結果は近時愈々その効著大にして漸時黨員獲得しつゝあることは今

時の大統領選舉戰に於ても明示された所である。今次の大統領選舉戰に於て、黨は第二位にあつたとは言へ、實に一千一百餘萬票を獲得したのである。此の顯著なる増大の結果を見ても、獨逸國粹社會黨の勝利が既に時間の問題にまで發して居ることは言ふまでもない事であらう。

ドイツ國粹社會黨の十戒

- 一、獨逸は吾人の祖國である。至上にして至愛の郷土である。
- 一、獨逸の仇は吾人の仇である。
- 一、國民の一人と雖も國家の單位である。
- 一、獨逸國家をして再び自由權を獲得せしむるは吾人の唯一の義務である。
- 一、吾人は獨逸國を誇るものである。

一、祖國獨逸を辱しむる者は、汝自身を辱しむる者である。

一、汝自身の利益を侵犯さるゝ時は唯戦争に訴ふべし。

一、徒に暴力を振はざるも、猶太系の魔手に對して自己を防禦する爲には敢て手段を選ぶものに非ず。

一、獨逸國の赤化運動に對しては死を以て撲滅する。

一、未來を信ずべし。吾人は必ず勝利の榮冠を得るものである。

八 國粹社會黨の批判

一

ヒットラー及び彼が率ゆる獨逸國粹社會黨の動きは世界注視の焦點である。従つて、彼等に對する毀譽褒貶も特に極端である。

ヒットラー個人に對する批評として最も多きは、彼を以て全然暴動の爲めの民衆煽動家に過ぎぬとする論である。此の批評は、ヒットラーの聽衆の魂にまで焼きつくやうな熱辯に依つて、全聽衆が一齊に奮ひ立つ現象を見て起つたものである。勿論、ヒットラーの熱辯は學理にのみ走るインテリ階層にうけるには餘りに大衆的であり通俗である。然し、それだけ大衆の胸にビンとくるのである。大衆

はその言はんとする所のものをヒットラーの思想に見出して奮起する。此の現象を目視してインテリ層は彼ヒットラーを大衆煽動家と酷評するのである。然し此等の批評は問題にならないだらう。何んとなれば、彼ヒットラーにとつても、幾多の有名無名の天才的政治家と同様に、その目標となり目安となるものは實に一般大衆それ自身に過ぎぬのであるから、歴史に於て明かなる如く幾多の政治家に對する個人的批評は附き物である。その者が、その者の主義と主張に忠實なればなる程、彼に對する好惡の批判も激化する。然しながら歴史の進化過程は一切の批判に無關心にその人物の價值が何を明瞭に決定する。酷評は酷評、好感は好感。ヒットラーの眞價は漸々歴史が明示する。ヒットラーは此等の一切の現象に禍される事なく、冷徹に彼の信ずる道を直進して行くであらう。それこそヒットラーたる本來の生命でもあるのだから、

ヒットラー個人に對する諸種の批判に就いては、上述の如く敢て問題にする必

要もないが、此の外に特に問題になり、批判の中心となつて居るものは、ヒットラーの主義思想とその具體的綱領に關する批判である。

獨逸國粹社會黨に對する批判の中、その最も著しきものに、かの共產主義の立場よりする批判がある。

共產主義は國粹社會黨の運動、即ち一般的にファシズムの運動を以て、資本主義制度の崩壊を防止せんが爲めの支配階級即ちブルジョアジーの末期的支配形態であるとする。

換言すれば、戦後、資本主義の内的矛盾は尖鋭化して其の一般的崩壊の危機迫り、従つて斯くの如き恐慌に直面して、其の支配階級たるブルジョアジーはプロレタリアートに對する支配的地位を震撼されるに至つて居る。即ち、ブルジョアジーの從來の支配的形態に於ては、既に現在被支配階級を支配するに餘りに無力である事よりして、此處にブルジョアジーはプロレタリアートに對する新たな

支配的形態としてファシズム意識を注入してファシスト的支配形態を探り、以て彼等の支配的地位よりの轉落を防止せんとするものであると解釋するのである。

之を客觀的に見れば、現在の世界的恐慌の社會的、政治的結果として、ブルジョアジーの採るブルジョア獨裁の政治的支配形態の強化の手段としてファシズム的支配形態が表れたるものであり、従つて、ファシズムの運動はブルジョアジーのかゝる要望の爲に生成されたるものであると解釋するのである。

此のコムミュニズムの理論は、獨逸國粹社會主義の運動にも適用される。

現在の獨逸は、今や有史以來未曾有の經濟的恐慌と従つて起る社會體制の基礎的動搖に依り、政治意識に覺醒したるプロレタリアート及び一切の被壓迫階級は、最早、被搾取的地位に甘ずるを得ず、猛然としてブルジョアジーの在來の支配形態を否定して資本主義體制の根幹を震撼せんとするの狀勢に在る。かゝる危機に直面して、獨逸の支配階級ブルジョアジーは、此の危機を切り抜けんが爲に

ファシズムの運動を利用すると説くのである。即ち、今日の獨逸の一切の不況は齊しく獨逸の課せられたる戰債支拂に依存すると強調し、従つて獨逸民族が現在の獨逸の恐慌より離脱せんとすれば、先づ獨逸民族は祖國ドイツの爲に一致して戰債一切の棒引を要求すべきであると宣傳して、獨逸國內に於ける階級的對立の現状を抹殺し、プロレタリアートの政治意識を國外に轉向せしめて強力なるブルジョアジの獨裁を確立せんとするものが今日のファシズムの運動であると説明するのである。

端的に言へば、ヒットラーに依る獨逸國粹運動は實質的に獨逸資本家階級の新たなる獨裁的支配形態確立の爲めの運動であると解釋するのである。

此のコムミュニズム立場に依る批判は、今日日本に於ても同様にその自稱他稱共產主義者より支持されて居る。所調ジャーナリズムの波に乗る一連の論客を以て任ずる左翼ファンは、齊しくファシズムを以てブルジョアジの過渡的支配形

態なりと解し、従つてドイツ國粹社會黨の運動も、その發展性に當然の限界ありと主張する。率直に彼等の言葉を借りれば、獨逸國粹社會黨の運動は必ず獨逸プロレタリアートの革命的意識を糊塗し得ず、その支配的地位を獲得し得ないと稱するのである。

上述の如き共產主義的理論に依る獨逸國粹運動の解釋は、然しながら、その兩者の指導理論の兩的相違に依る偏見である。

若し、共產主義的解釋の如く、一般的に國粹社會黨の運動を以て支配階級たる獨逸ブルジョアジーが、彼等の支配的地位擁護の爲めの過渡的支配形態なりと解するならば、現在、支配的地位に在るドイツ金融資本家に對して猛然として抗争を宣言し、金融資本家及び企業家の大企業に對する權限を剝奪して、大企業を官營とする主張する國粹社會黨の現實的主張は、彼等資本家階級の階級的利害と相反するものではあるまいか。而して又獨逸に於ける金融資本家の大部分はかの

ユダヤ民族及びその支配的影響を受くる者なりとして、極端にユダヤ族を排斥し金融の國家的統一を主張する國粹社會黨の主義精神は、とりも直さず資本主義的體制に於て決定的に支配的地位を擁する金融資本家に對する公然たる抗爭を表現するものではあるまいか？

若し又獨逸國粹社會黨の運動を目して、獨逸ブルジョアジの末期的新たなる支配形態確立への手段的運動とするならば、現在何が故に獨逸國粹社會黨の運動は獨逸金融資本の政府ブリューニング内閣に依つて憎惡せられ抑壓されるのであらうか？

此等の具體的事實は、今日の獨逸國粹社會黨の運動が、彼等共產主義的立場に立つ者の解釋の如く獨逸金融資本家の過渡的支配的形態の爲の運動でなくて、眞實に獨逸全民族の幸福と利益の爲に抗爭し、その爲には支配的地位にある現在の獨逸金融資本家の利害をすら抹殺することを示すものである。

且つ又、今日に於ける獨逸國粹社會黨の運動の限界を主張して、その覇權に至る過程に於てプロレタリアートの階級的意識の昂揚により必然的に崩壊を云云する者は、現在の獨逸國家の恐慌の火中にあつて、猛然として直進して行く國粹社會黨の勢力の増大の事實を顧みるが、社會民主黨及び共產黨の勢力の減退或は遅れたる増進に比して、獨逸國粹社會黨の勢力の増大は格段の差がある。一九三〇年の總選舉時に於て國粹社會黨の總得票數は無慮六百五十萬を數へたのが、今日一九三二年三日の第一期大統領選舉戰に於ては一躍一千二百萬に増大したのである。此の歴史的躍進は何を物語るか。此れこそ眞實に獨逸國粹社會黨が、今日の獨逸民族を救ふ唯一の政黨であることを、獨逸民族の意向に依つて示された具體的事實ではないか？

これこそ、今日の獨逸民族が、共產黨に依つて金融資本の政黨にまで轉落したる社會民主黨の資本家的政府に反對して、ドイツ國粹社會黨の旗下に走せ參じ、

國粹社會黨に依つて民族的ドイツ國家を救はんとする意圖を示すものに外ならぬのである。

次に又、別の意味即ち獨逸國粹社會黨は、ブルジョア既成政黨の構成分子のみを獲得しつゝあるからといふ點よりして同黨の發展の眼界性を評論する者がある、即ち、資本の未曾有の不況に臨んで、在來ブルジョア諸政黨は具體的にその政策の實行に窮し、従つてその政黨の内部的行詰りと崩壞に依り、此等の政黨員が國家社會主義を標榜して立つたヒットラーの國粹社會黨に吸收されたものであり。従つて現在既に吸收し得べき分子は盡されてしまつて居て、國家社會主義のこれ以上の發展は望まれないと言ふのである。

言ふまでもなく、此の解釋は妥當ではない。何んとなれば、現在の獨逸に於て、ヒットラーに依つて蠶食せられつゝある政黨は、單に獨逸既成ブルジョア諸政黨のみでなく、かの社會民主主義を標榜して立つ反資本主義政黨社會民主黨を

も含むからであり、寧ろ、ヒットラー黨の政策は此の社會民主黨及び共產黨に向つて全力を注がれて居るのであるからである。そして此の事は、實に國粹社會黨の勢力の増大が、獨逸社會民主黨の勢力範圍への侵入に依つてもたらされて居ることに依つても説明し得るであらう。

各地方に於ける國粹社會黨の選舉得票數の劃期的増大、就中、各工場内に於ける勞働者の國粹社會黨への轉向の現象を観察すれば、彼等一派の意識的に主張するが如き國粹社會黨の限界性の問題は、問題たり得ないであらう。一九三〇年と一九二九年の兩年度に於ける左記ドレスデン地方、及びルール地方の選舉得票數の現象を例示しやう。

ドレスデン	國粹社會黨	三一五〇三の増加
	社會民主黨	一八一九二の減少
共產黨		二二二五の増加

ルール地方十二工場の工場委員會選舉の得票數。

	一九三〇 ^年	一九三一 ^年	増減
改良主義組合	二二五・一七	一二九・二八	九五八・九減
キリスト教組合	一四四・一九	一〇〇・四六	四三七・三減
共產主義組合	一三二・二九	一三二・九一	一・六四増
國粹社會黨	三八・三	二八・三二	二四四・九増

以上の如き諸例は、獨逸に於ける國粹社會黨の勢力が、單に既成ブルジョア諸政黨の崩壞に依つてのみ増大しつゝあるといふ解釋、從つて、獨逸國粹社會黨の將來への發展の限界を云云する説をくつがへすものであり反對に獨逸國粹社會黨は、ある一派の分子の意識的に解釋する如く一時的存在の政黨でなく、獨逸勞働者階級に依つて支持されて行く全國民的政黨であることが觀察されるのである。即ち、此等の事實よりして、獨逸國粹社會黨の將來に於ける發展性は世上一切の偏

見とは無關心に洋々として盡まざることを知り得るであらう。

以上の諸批判の外、現在の獨逸國粹社會黨の掲ぐる綱領政策に關する若干の批判がある。民族主義に對する批判、及び、國家主義、社會主義、反ユダヤ主義の三要素に對する批判、等々を基本とする一連の批判であり、此等の間に於ける所謂矛盾撞着の指摘である。然しながら、此等國家社會主義の諸特質、換言すれば國家社會主義の理論上の諸で點に就いては、敢て一獨逸國粹社會黨の批判にのみ限るべきでなく、國家社會主義の理論そのものとして考察し批判さる可きものであらう。従つて此等の一般論に對する批判は別の機會に於て取扱ふことにする。唯、ある一派の企圖するが如き一偏向的批判、意識的反對の爲めの批判に依る矛盾撞着の强行指摘の如きは敢て問題にするには足りないことを附加しておくに止めておかう。

要するに、獨逸の國粹社會黨は民族的自決權の下に強力なる國家社會主義的社

會の實現を企圖する。此のドイツ國粹社會黨の示す一事例は、世界に於て、その國際性に於てよりも、各民族を基調としたる各民族の結合の可能性と必然性とを暗示するものであり、從つて又、各國に於ける國家社會主義的運動が、現在の無統制なる資本主義社會體制に代るべく興隆し、漸々國家的統制の下に社會主義的社會體制建設の日の訪れるであらうことを物語るものである。

ともあれ、一切の批判と偏見に對する決定的解決は歴史の任務である。

國家社會主義的社會體制が、現時の無統制なる資本主義的制度に次いで起るか。將又、資本主義制度の內的矛盾が必然的に民族性を抹殺したる國際的共產主義の社會を招來するか？ ファシズムかマルキシズムか？ 漸て一切は歴史が明示する。

一九三〇年九月十四日の總選舉に於ける

國粹社會黨所屬代議士

人 名

職 業

一、ドクターアルブレヒト、ヘルパート 農業經濟學者

二、フエーゲル、ウイルヘルム 事業家秘書

三、ブレドー、ラインハード 地主

四、ブリュクネル、ヘルムス 編輯人

五、ブッフ、ワルテル 退職少佐

六、ブリュケル、ジョセフ 教師

七、フォン、コルスワント、ワルター 信託所有者

八、ドクター、デッケル、ウイルヘルム 著述家

九、チートリツヒ、ジョセフ 運送業者

十、ズレツヘル、ウイルヘルム 錠前屋

一一、フォン、エツプ、フランツ 退職中將

一二、ドクター、フアブリシウス、ハンス 官吏

一三、フェーデル、ゴットフリード 工業技師

一四、フイルツシュ、マツクス 商人

一五、フロリアン、フリードリツヒ、カール 鑛山官吏

一六、フォルステル、アルバート 手代

一七、ドクター、フランク、ハンス 辯護士

一八、フランチェン、アントン 區裁判所判事

一九、ドクター、フリツク、ウイルヘルム 洲役人

二〇、ゲマインデル、ペテル 補助職工

二一、ドクター、ゲーベルス、ヨセフ 著述家

二二、ゲーリング、ヘルマン 退職大尉

二三、ハツセ、エリツヒ 政府監察官

二四、ハウケ、エリツヒ ブリキ屋

二五、ハイネス、エドムンド 郡長

二六、ドクター、ヘルビツク、ロバート 教授

二七、ヘルグト、オットー 農業労働者

二八、ヒエール、コンスタンタン 退職大佐

二九、ヒルデブランド、フリードリツヒ 農業労働者

三〇、ヒムレル、ハインリツヒ 地主

三一、ヒンケル、ハンス 編輯長

三二、ホルディングハウゼン、オイゲン ペンキ職の親方

三三、ホーマン、フリツ 雜誌社支配人

三四、ホーン、カール 圖案家

三五、エンゲ、エルンスト 郵便局員

三六、エンチエン、コンラド 電信監督

三七、カーペンスタイン、ウイルヘルム 辯護士

三八、カールワーネ、ベルトホールド 勤人

三九、キヤツセ、ジীগフリート 商人

四〇、キヤツツマン、エルンスト 煙突工作者

四一、カウフマン、カール 郡長

四二、ユルケン 參事官

四三、コツホ、フリツヒ 郡長

四四、クラウゼ、ハンス 資産家

四五、クラウゼ、ルドルフ 商人

四六、ライスター、アルベルト 郡出納係

四七、レンク、ゲオルグ 商人

四八、レンツ、カール 元教師

四九、ドクター、レイ、ロバート 化學者

五〇、リンデル、カール 稅務上級書記

五一、ドクター、レーベルマン、マルチン 學務委員

五二、レーバー、ウイルヘルム、フリードリッヒ 退職大尉

五三、ルッツエ、ビクトール 商人

五四、ルイケン、マツクス 退職大尉

五五、マイエルホーフエル、フランツ 教師

五六、マルチン、カール 旅行案内者

五七、ドクター、メイヤー、アルフレッド 組合委員

五八、マイアークアーデ、ヨアヒム 編輯長

五九、ムンヒメイヤー、ルードウィツヒ 傳導師

六〇、ムール、ウイルヘルム 勤人

六一、ムツチマン、マルチン 工場主

六二、ドクター、ニールランド、ハンス 國民經濟學者

六三、オーベルリンドオーベル、ハンス 商人

六四、プリメイヤー、フランツ 彫刻師

六五、ラインハルト、フリッツ 國民經濟學者

六六、レペントロー伯爵エルンスト 新聞記者

六七、リングスハウゼン、フリードリツヒ 教師

六八、レーバー、カール 商人

六九、ローゼンベルグ、アルフレッド 編輯長

七〇、ロス、ロバート 農及大工

七一、ルツプ、ヨハンス 辯護士

七二、ルスト、ベルンハート 學務委員

七三、シャーラー、リハート 建築勞働者

七四、シエム、ハンス 教師

七五、シユメーア、ルドルフ 電氣組立技師

七六、シユナイダー、ヘルマン 騎士領小作人

七七、シエーンヴェルダー、ヨセフ 石工

七八、シユーマン、ヴァルター 機械技師

七九、シユルツ、ロバート 菓子店員

八〇、シユルツエランゲンドルフ、フリードリツヒ

中學教師

八一、シユワルツ、ウイルヘルム 辯護士

八二、ザイドラー、ヅルター 地主

八三、シモン、グスターフ 工業學校教師

八四、シユバンゲマツヒエル、ハインツ 主筆

八五、シユプレングル、ヤコブ 郵便監督

八六、シユターマー、ブルノー 勞働者

八七、シユテツグマン、ウイルヘルム 機械技師

八八、シユテール、フランツ 商人

八九、シユトラールセル、グレゴール 藥劑師

九〇、シユツルツ、エミール 自働車運轉手

九一、テルシヨウ、オットー 郡長

九二、テルボーフエン、ヨセフ 銀行員

九三、ティーレ、クルト 勤人

九四、トルメーレン、アドルフ 農園主

九五、ティーベル、フリッツ 郵便監督

九六、トリール、フリッツ 裝飾ペンキ屋

九七、ホン、ウルリツヒ、クルト 退職少將

九八、ドクター、ウサデル、ゲオルグ 學務委員

九九、ヴェーラー、ヴィリー 商人

一〇〇、ベツター、ハインリツヒ 官吏

一〇一、ワグナー、ヨセフ 郡長

一〇二、フル、ホン、ワンゲンハイム、アレキサンダー 地主

一〇三、ワイツエル、フリッツ 錠前師

一〇四、ヴィガント、ウイルヘルム 支配人

一〇五、ヴィリケンス、ウエルネル 地主

一〇六、ヴォルケルスデルフェル、ハンス 商人

一〇七、ドクター、ツンケル、グスターフ 學務委員

ヒットラート獨逸ファシズム運動

定價 五十錢

昭和七年五月十六日印刷
昭和七年五月十八日發行

版 所
權 有

著 者 未 下 好 太 郎

東京市豊町區飯田町六ノ八一

發 行 者 松 本 清 太 郎

東京市京橋區西八丁一ノ四ノ四

印 刷 者 齋 藤 廣 吉

東京市豊町區飯田町六丁目

發 行 所

株式會社 內 外 社

電話 九段 三六六二
振替東京七六八四九番

アドルフ ヒットラー 余の闘争

坂井隆治譯 最新版

待望の書ついに現はる!!

四六版三二〇頁
洋布装函入
定價一圓三十錢
送料十二錢

『余の闘争』目次

- 1 世界觀と黨言
イブルチヨアの綱領委員會
ロマルクス主義と民主主義的
原則
ハ「民族的」といふ概念
2 國家と民族の國家概念
3 人物と民族の國家概念
4 人物と民族の國家概念
5 世界觀と綱領委員會
6 初期の闘争——演説の意義
7 赤色戦線との闘争
8 力の原理
9 獨逸國民社會主義労働者の
意義並に組織に關する觀念
假面としての聯邦主義
11 労働組合の問題
12 太戰後の獨逸の同盟政策
13 東方政策
14 獨逸國民社會主義労働者
15 附錄——獨逸國民社會主義労働者
黨の綱領解釋

雜誌の編輯

内容——雜誌編輯と實際知識を、日本代表主筆十
八氏分擔執筆

●菊版三〇〇頁上製美本 價一、五〇送料二二

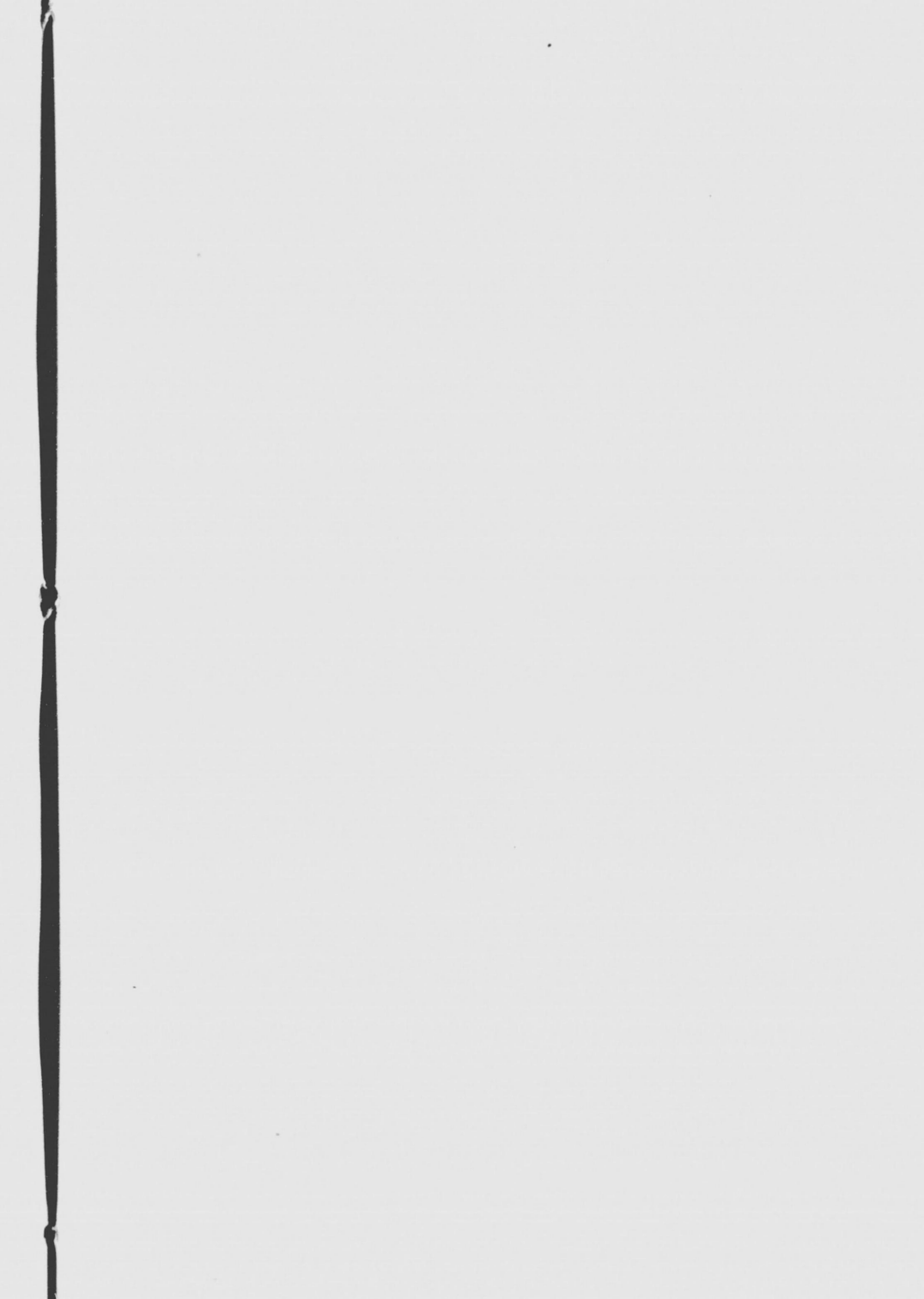
新聞特種秘話

特種は如何にして作られるか——新聞街新人を中
心とした第六感に生きる人々の努力を、ユーモア
と諷刺、興味百%の讀物とした自信ある新著。

●四六版上製三〇〇頁 價一、〇〇送料一〇

東京電話振
市話東
麹九段京
區飯三六
田六八
町六八
丁二四
目番九

行發社外内







NO.

PATENTED NO. 119016

“F-M”

PAMPHLET BINDERS

are carried in stock in the following sizes

Catalog No.	High	Wide	Thick
851(菊倍)	30. cm. x	22.5cm. x	1cm.
852(四六倍)	26. „ x	18.5 „ x	1 „
853(菊)	22.5 „ x	15. „ x	1 „
854(四六)	18.5 „ x	12.5 „ x	1 „
855(特)	24. „ x	15. „ x	1 „

Special sizes are made to order

LIBRARY SUPPLIES IN ALL KINDS

F. MAMIYA & CO.

OSAKA-TOKYO-FUKUOKA

